平成29年度　アーツ前橋事業評価調書（1）

資料1

基本事項	事業名	ヒツクリコ　ガツクリコことばの生まれる場所			
	会期	平成29年10月20日（金）～平成30年1月16日（火）		開館日数	70 日間
	会場（ギャラリー）	アーツ前橋　全ギャラリー		実施方式	02自主企画・名義共催方式
	観覧料	一般　700 円		出品点数	アーツ前橋　78点 文学館　163点
		割引　350 円			
	担当者	学芸：今井　朋　事務：山田　一志			
	目的・目標（総括表）	「ことば」について文字と美術の表現を通じて、人間と言葉の関係や言葉の始原的な役割を考える。文学館や図書館など市内の他施設との連携を図り、街なかの回遊性を高める。			
	キーワード	震災以降・ポスト真実の時代の言葉、前橋文学館との共同企画、街なかの回遊性			
	他団体との連携（共催、協力等）	・前橋文学館との共同企画			
		・市内の図書館との広報における連携と荒井良二WSの共同運営			
		・前橋駅、中央前橋駅、スズランデパート、喚乎堂、中央通商店街、呑龍商店街（TOLTA作品展示）			
		・芽部（2011年に結成された詩人などのグループ）と連携した「前橋　ことばの学校」の開催			
	参加作家	荒井良二	鈴木ヒラク	山川冬樹	全36作家（文学館含む）
	関連イベント	9/30,10/1　三館共同企画　荒井良二と作る展覧会！			
		10/22　今日の原稿用紙―TOLTAによるツアー型ワークショップ―			
		12/2　山川冬樹パフォーマンス、山川冬樹×今井朋対談			
		12/9　鈴木ヒラクドローイングパフォーマンス、鈴木ヒラク×今福龍太対談			
		11/8,12/10,1/13　学芸員によるギャラリーツアー			

①インプット（投入）・・・用いた資源　②プロセス（活動）・・・戦略や手段の計画　③アウトプット（結果）・・・実施内容、実績
④アウトカム（成果）・・・どういう反応が得られたか　⑤インパクト・・・波及効果

①投入（支出）・③結果（収入）	印刷物等	ポスター（B2/A3）	チラシ（A3）	館内マップ	セルフガイド	リーフレット	図録
		3,000 部	80,000 部	0 部	5,000 部	0 部	1,100 部
	収入／支出	収入（A）別表から転載	支出（B）別表から転載	収支比率（A）／（B）	入館者一人当たりコスト	観覧券売上収入（Aの一部）一般	割引	合計
	予算	1,930,000 円	25,300,000 円	7.6%	3,254 円	-	-	1,930,000 円
	決算（見込み）	1,749,550 円	25,330,427 円	6.9%	3,258 円	256,900 円	1,492,650 円	1,749,550 円
	差額	−180,450 円	30,427 円	−0.7%	4 円	-	-	−180,450 円
	予算／決算	90.7%	100.1%	90.5%	100.1%	-	-	90.7%
	会期一日あたり（決算）	24,994 円	361,863 円	-	-	3,670 円	21,324 円	24,994 円

②内容・活動	〔②内容〕事業の概要	事業の概要（転記）	前橋文学館との共同企画展として「ことば」をテーマに書から現代作家までを紹介。街なかの回遊性を高めるプログラムを実施。
	〔②活動〕主な取組（手段）の結果 ・メディア等広報実績 ・新たな試み 図録 関連イベント 助成　など ●指標 来館者反応 手ごたえ アンケート	・広報戦略 ・新たな試み（転記）	1.高校生や子どもとの事前WSによる協働から広報動画を制作 2.話題性の高い執筆者が参加するコンセプトブックの制作 3.市内図書館と連携した広報活動
		広報実績［新規掲載や効果が大きかった媒体など、特別な案件］	1.事前WSを元に広報動画を作成し、主にSNSやネット上で発信した。Youtubeでの視聴回数は、414回と若干伸び悩んだが、（cf：加藤アキラ展広報動画は、685回）facebookでの再生回数は4,000回以上を数える。また、市内8箇所のサイネージにて放映した。 2.対談やエッセーなど多様なコンテンツを盛り込むことで、企画展のテーマに関心を持ってもらえるようなコンセプトブックを制作。書の専門誌（月刊『書道界』）にて、書評が掲載されるなど、専門家からの評価も高かった。 3.市内の公立図書館16箇所と連携した広報活動を行った。企画展の関連書籍コーナーを作り、図書館利用者への情報発信を行った。（関連本の貸出冊数は、1011冊）

平成29年度　アーツ前橋事業評価調書(2)

資料1

	事業名	ヒツクリコ　ガツクリコことばの生まれる場所
②内容・活動	新たな試みの実績	・インスタグラムによる情報の発信 会場内で来場者に写真撮影をしていただき、インスタグラムで発信してもらう試みを行った。(アーツ前橋のインスタグラムのフォロワー193人、本展関連のハッシュタグによる投稿483件)若者をターゲットにした情報発信ツールとして使用。実際、アンケートでも、インスタを通じて展覧会を知ったという意見も見られた。ただし、撮影できる作品を荒井良二と鈴木ヒラクの2作品に限定したため、ネット上に流布される企画展のイメージが偏った。可能な限り撮影可能とするべきだった。 ・街なか回遊の仕組みとしての作品を設置。作品としての機能だけでなく、広報メディアとしても機能した。回答回収数は、288枚。また、人気の高い作家の荒井良二MAPを制作し、ファンに確実に情報が届く仕組みを作った。市内本屋の絵本コーナーなどで配布してもらうことで、子どもを持つお母さんをターゲットにした広報を行った。フリッツアートセンターでも荒井良二展を開催していたが、うまく連携関係を築くことができなかった。

③結果

入場者数(参考数値) 上段:人数(人) 下段:割合(%) ※色付きは有料観覧者	一般	学生	65才以上	団体	高校生以下	招待券	割引等	視察	イベント	他	合計(人)	日平均(人)
	860	73	141	77	409	1,024	802	68	2,394	1,926	7,774	111
有料観覧者率　25.1%	11%	1%	2%	1%	5%	13%	10%	1%	31%	25%		

一般指標	指標	目標値	達成値	達成率	特記事項
	入場・参加者数	7,000 人	7,774 人	111.1 %	
	展覧会満足度	80 %	81.5 %	1.5 pt	アンケートに、「満足」、「やや満足」と記入があった割合(無回答を除く)

③結果	進捗管理 [スケジュール観]	Ⓐ概ね円滑に進んだ B.遅延気味であった( ) 開館後まで積み残しとなった事項( )

④成果	[④成果] 期待に対する結果 ・観覧者層のターゲット ・ねらい	観覧者層のターゲット	ターゲット:親子連れ、アートファン、高校生
		成果	・親子連れ　:　荒井良二さんのWSや展示を通じて、隣接する子ども図書館に荒井良二絵本コーナーを設置した。また、荒井良二を巡る旅MAPを制作し、市内の子育て中のお母さんたちが集まりそうなカフェなどに配布したことである程度の効果は見られたようだ。 ・アートファン:　関連イベントを充実させることで、多様なテーマのイベントへの参加を可能にした。(開催イベント数計27回、合計参加者数のべ2394名) ・高校生:　高校生を対象にした事前WSを行った(参加者数のべ32名/2日間)。来場者数全体から高校生以下の数　409名(5%)
		ねらい1(転記)	1.他施設との連携による新たな客層の獲得
		成果	アンケートの中で、文学館でチラシを見てが5件、図書館でポスターを見てが3件があった。また、前橋駅やのぼりを見て来館したという方も散見でき、街なか回遊の仕組みとして設置したTOLTAの作品が広報の役割も果たしていたことがわかる。また、アンケートより「初めて来館」が全体の45%を占めることも考えると、新たな客層は十分に獲得できたと考えられる。
		ねらい2(転記)	2.分野横断的なテーマ理解
		成果	アンケートからは、「企画の意図するところが不明」というテーマに対しての難しさを指摘するコメントもあったが、「いろいろな切り口があって何というか驚きです。」「人間がことばを産み出す原初の感覚を味わえました。」「ことばとアートを結びつけるとは難しいのではと思っていたが面白かった」など、美術の枠だけでは、語りきれない作品群から企画の意図を感じ取ってもらえた意見も多く見られた。
		ねらい3(転記)	3.事前WSなどによる市民との連携
		成果	市立前橋高校との事前WS、荒井良二と主に県内の小学生とのWS、芽部と開催した「前橋ことばの学校」など、イベント開催を主体的に市民の方にお願いすることで、スタッフだけでは実現不可能なボリュームのイベントを開催することができた。

平成29年度　アーツ前橋事業評価調書(3)

資料１

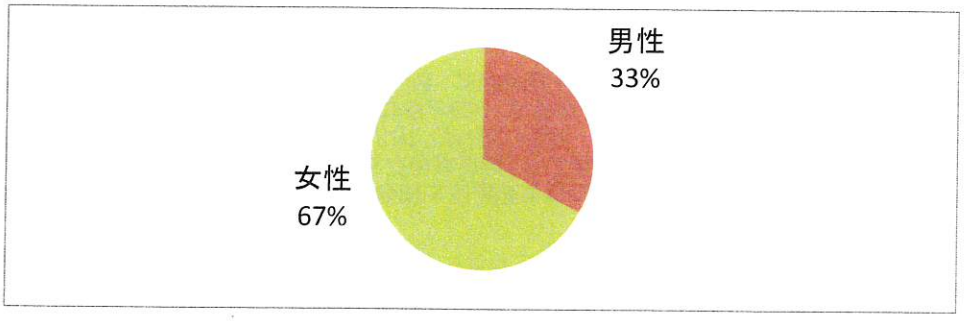
	事業名	ヒツクリコ　ガツクリコことばの生まれる場所
⑤波及効果	個別評価 ※記入日を()内に入れてください ※概ね1年経過毎に再確認して修正	<1～6は、記入項目の例・無い場合は削除。独自の評価項目の設定可。記入日を記載> *1. 参加作家のその後の活動を評価*⇒荒井良二、鈴木ヒラク、山川冬樹、TOLTAは今回の企画展のために新作を制作した。鈴木氏の作品は、H29年度にアーツ前橋の収蔵となり、新作の大半は市内の画廊を通じて、県内のコレクターの手に渡った。山川氏の作品は、新聞等でも度々取り上げられるなど話題を呼んだ。また、物故作家では、群馬県ゆかりの大澤雅休・竹胎作品の中でも個人収蔵の作品を展示することで、改めてその価値を見直す機会となった。大澤兄弟の作品もH29年度にアーツ前橋の収蔵とした。 *2. アーツの事業に対して、誰がどのような価値を見出したのかを評価* ⇒美術批評家の椹木野衣氏による2018年展覧会ベスト4にお選びいただいた。「練りに練られた構成」というコメントともに、特に展示構成に関して、評価していただいた。 *3. 事業関係者(作家、運営、イベント参加者、地域住民)たちとの間で生まれた交流やその後の関係性の構築を評価*⇒TOLTAの作品は、街なかの商店街を中心に設置したが、日々のメンテナンスは商店街の方たちにお願いをすることでお互いの信頼関係を構築することができた。また、店舗の方たちが、独自に作品のポップを作成するなど、近隣商店街と作品との交流が生まれた。 *4. 事業の実施に伴う波及効果*⇒今回の新作をアーツ前橋で収蔵するなど、館のコレクションの充実に役立った。 *5. 地域資源の活用という点での効果*⇒群馬県立近代美術館とリサーチレベルで協力することで、大澤兄弟のような地域ゆかりの作家の個人コレクションの再発見、再評価に繋がった。 *6. 意図せざる(思わぬ)効果*⇒昨年度の「フードスケープ」展では、県外からの来場者が25%であったのに対し、本展では36%と遠方からの来場者が通常の秋の企画展よりも多かった。

自己評価(担当者)	効率性　①:③ 事業が効率的だったといえるか	(1)非常に良い	2.良い	3.普通	4.劣る
	合目的性　②:④ 事業の目的を達成したといえるか	1.非常に良い	(2)良い	3.普通	4.劣る
	事業の将来性　②:⑤ 館の事業に対し将来性があるか	(1)非常に良い	2.良い	3.普通	4.劣る
	社会的将来性　③:⑤ 社会への影響に将来性があるか	1.非常に良い	(2)良い	3.普通	4.劣る
	課題・改善点	広報スケジュールを適切に進行したこと、他団体との連携を通じて多数の多様なイベントを開催することができたことなどが、来場者数の伸びに繋がった。スケジュールに余裕を持つことで、デザイナーや出版社との十分なイメージの共有をできたことも広報効果としては大きかった。ただ、市民からの意見として、タイトルが分かりにくく、展示されている内容が想像しにくいという指摘も受けた。広報イメージが、芸術一般の玄人向けに制作されたものである印象は否めないが、選定作家に荒井良二やオノ・ヨーコなどの著名なアーティストを入れ込むことでバランスをとった。 また、コンセプト・ブックの全体の発行部数が少なく、発売と同時に出版社には在庫がなくなってしまった。それゆえ、県内の書店への流通も悪かった。予算との兼ね合いもあるが、事前に部数とその後の広報計画を出版社と入念に設計すことで、より効果的なコンセプトブックになったと反省している。			

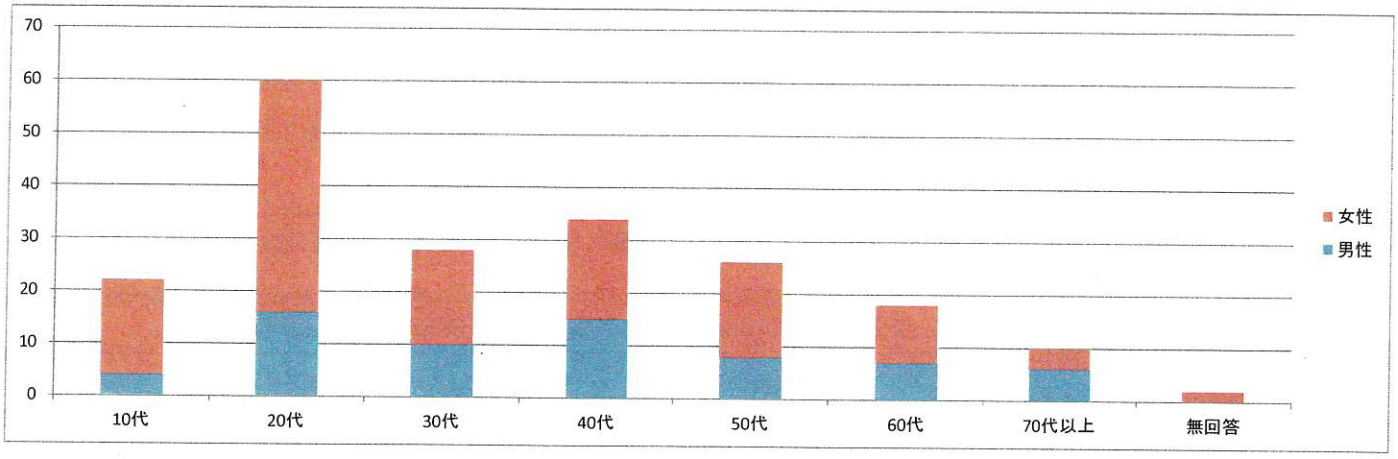
引継ぎ事項 (特記事項)		文学館との共催という初めての試みであったが、そのことを検証するためのツールを十分に準備できなかった。今後の運営も含め考えるならば、通常のアンケートのみならず、もう少し統計的な数値をとれるような工夫を事前に考えておきたかった。
コメント・意見	館長 副館長	初めての文学館との共催で困難な調整をとてもよくこなした。難しいテーマを分かりやすくする工夫も効果を発揮していた。当館の企画展の魅力を伝える企画になったと思う。関連イベントは少し欲張り気味だったので、効果的な実施方法を絞り込むとよかった。
	運営 評議会	

最終更新日:H30.3.28

資料① アンケート回答数（200人）

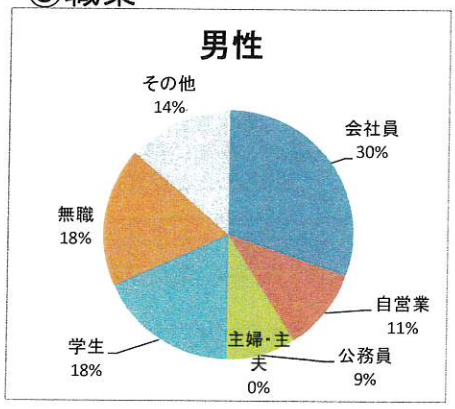


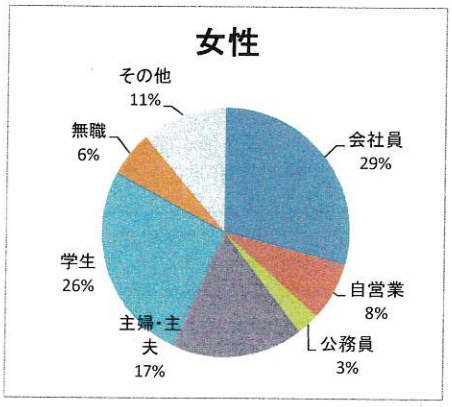
②年代

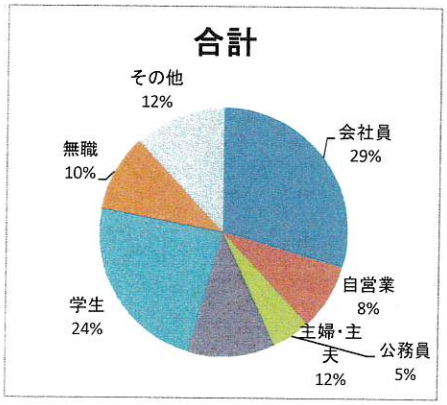


「ヒツクリコ展」 2017.10－2018.01

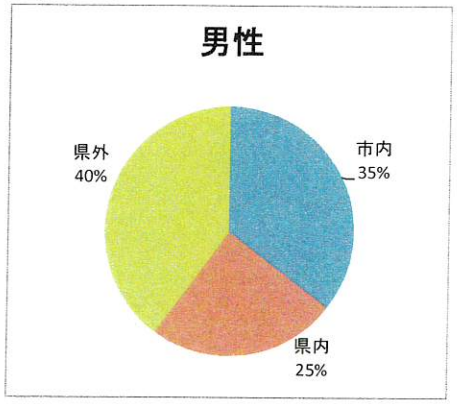
③職業

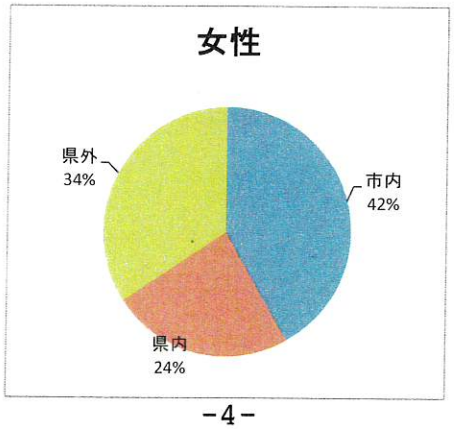


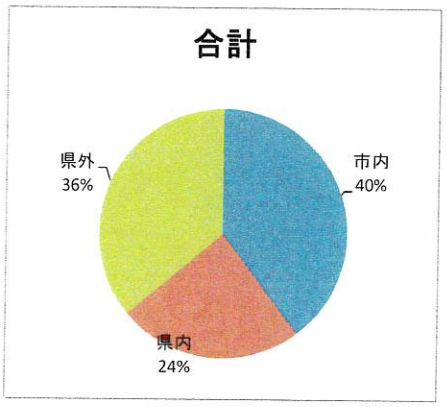




④住まい

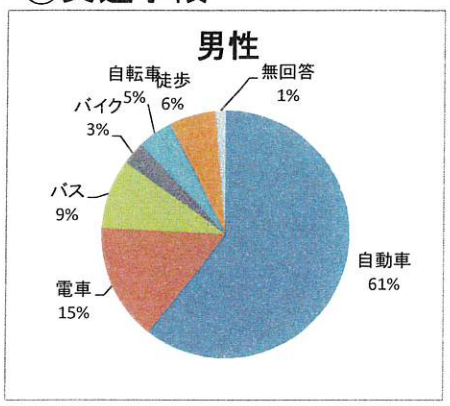


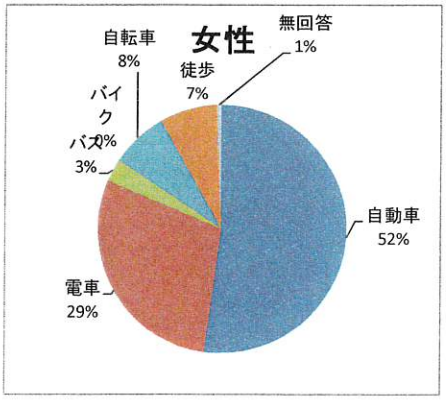


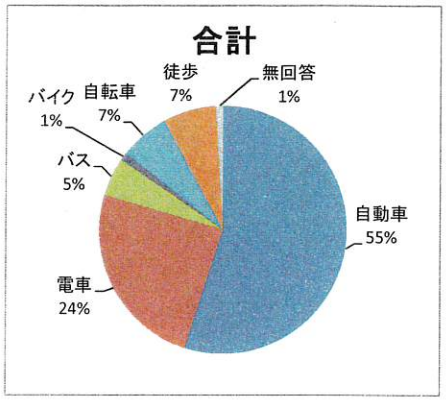


資料１

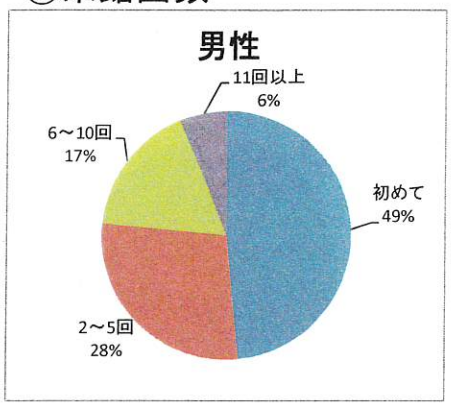
⑤交通手段

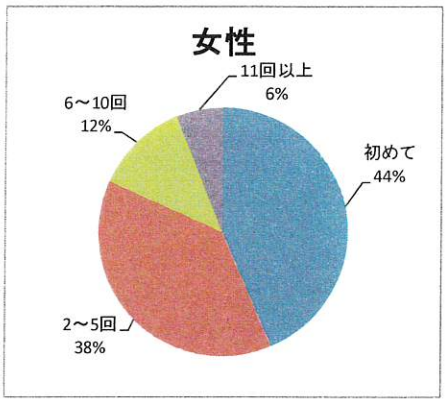


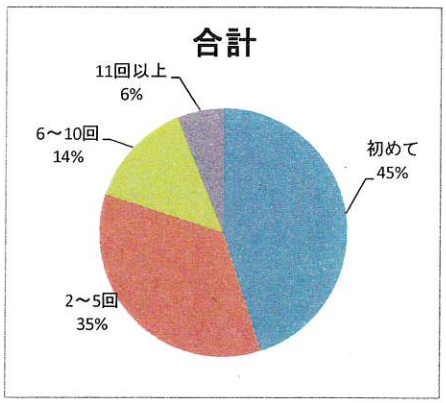




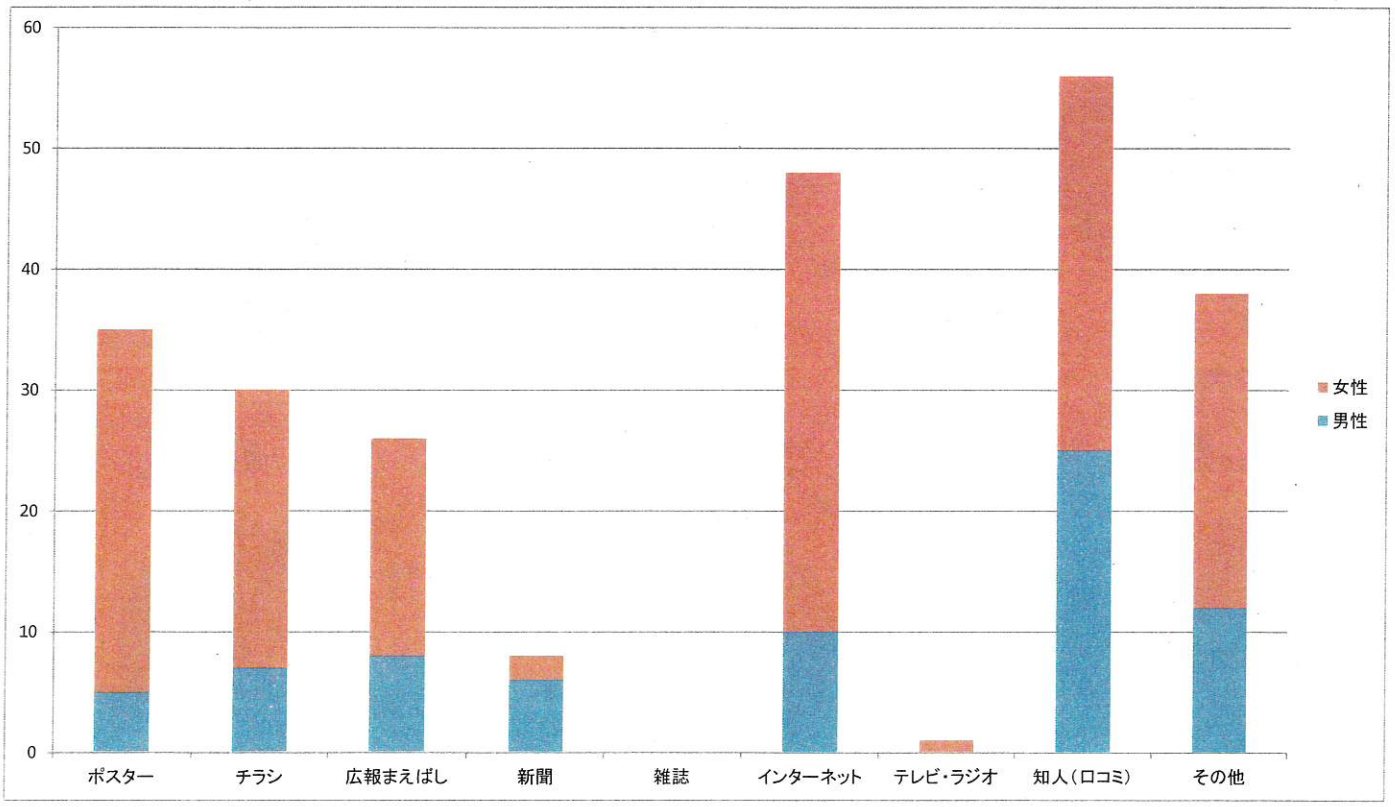
⑥来館回数





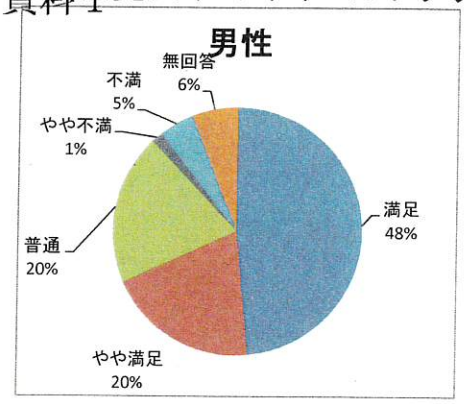


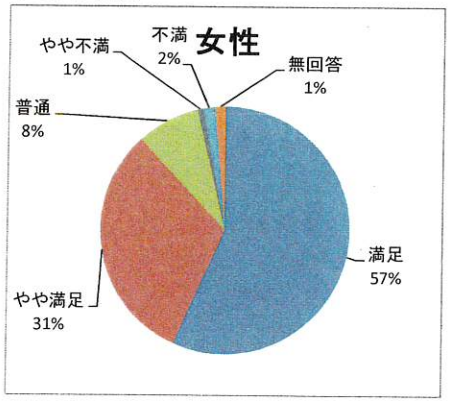
⑦企画展等を知った方法（※複数回答あり）

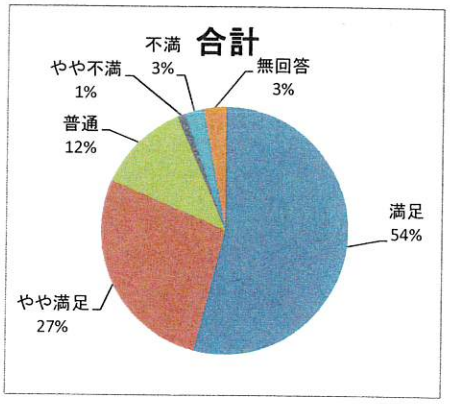


資料1

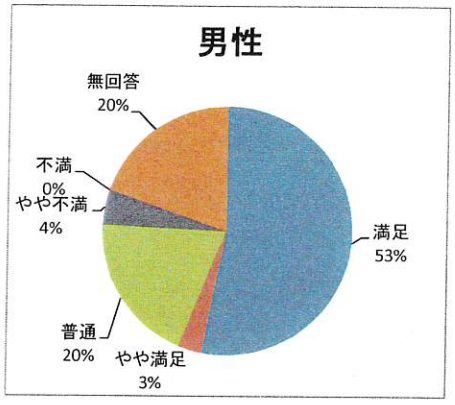
⑧展覧会（ヒツクリコガツクリコ）の内容

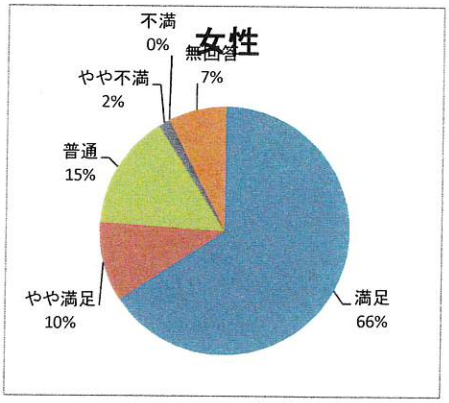


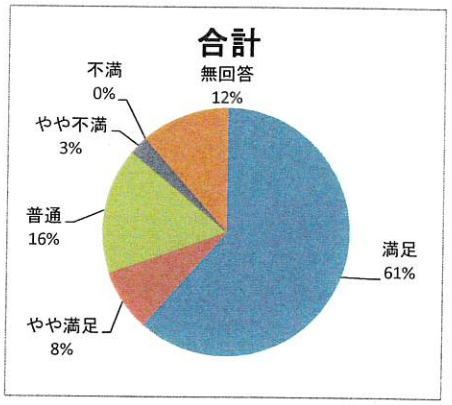




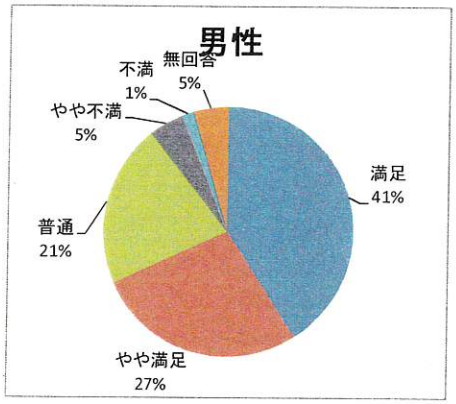
⑨入館料

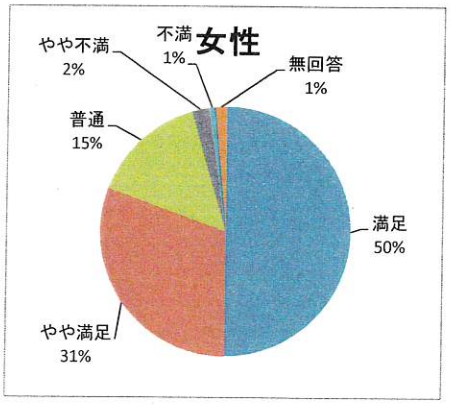


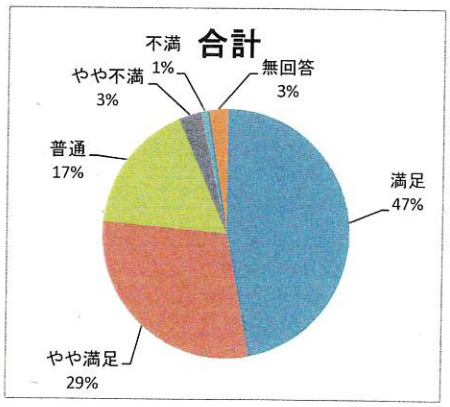




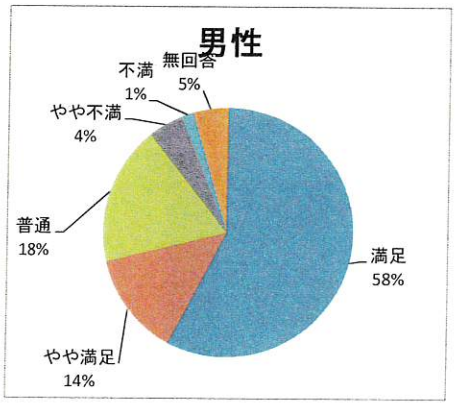
⑩作品のみやすさ

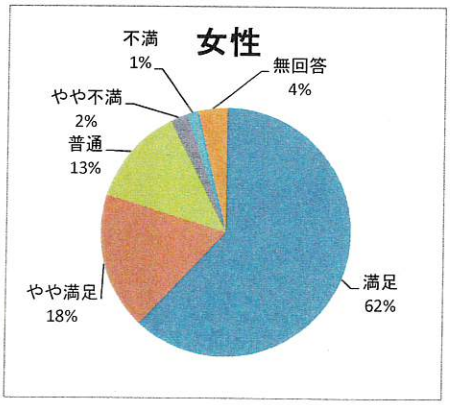


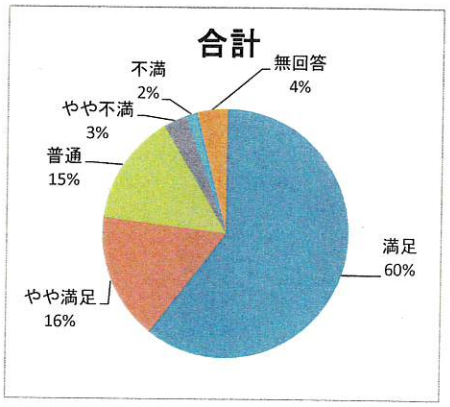




⑪スタッフの対応

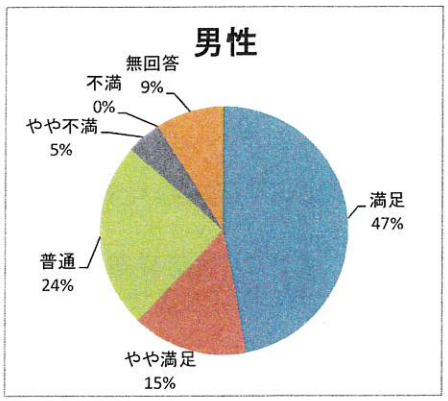


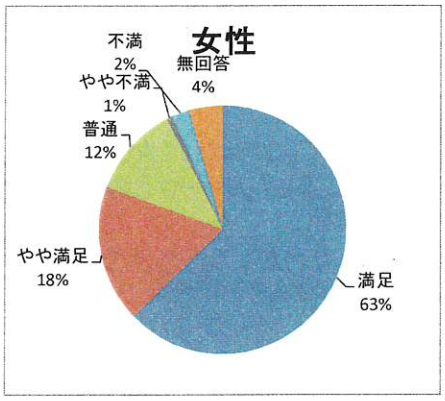


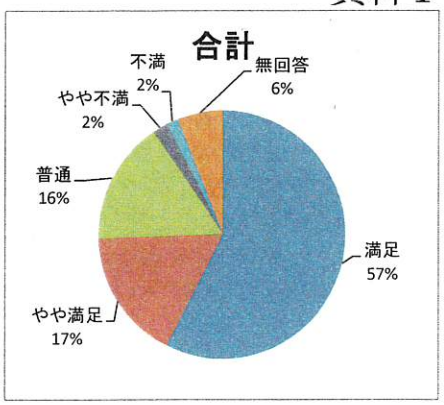


資料１

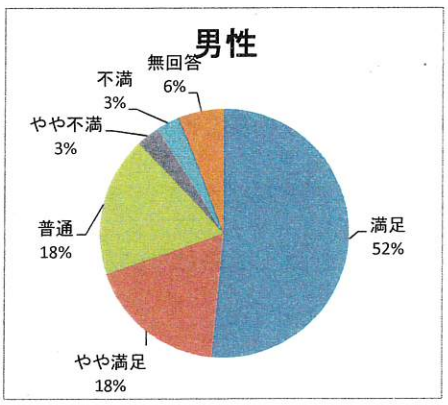
⑫施設の利用のしやすさ

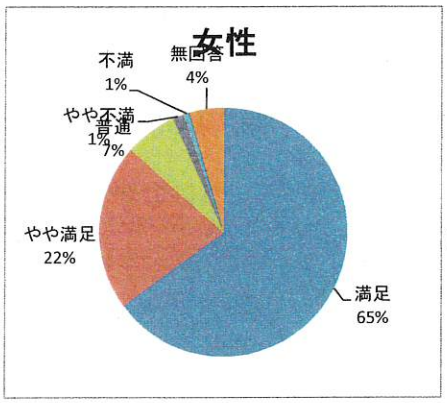


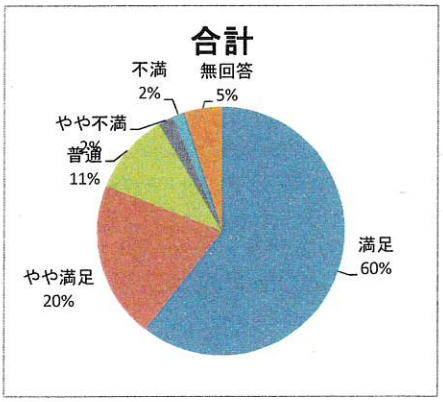




⑬アーツ前橋全体の印象

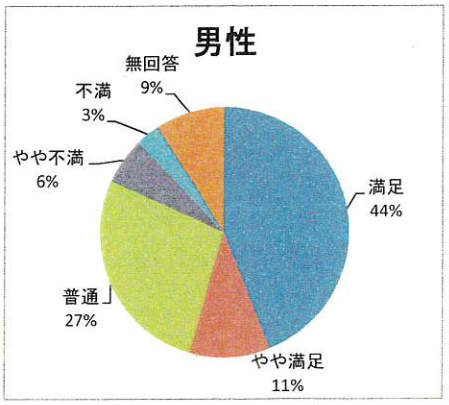


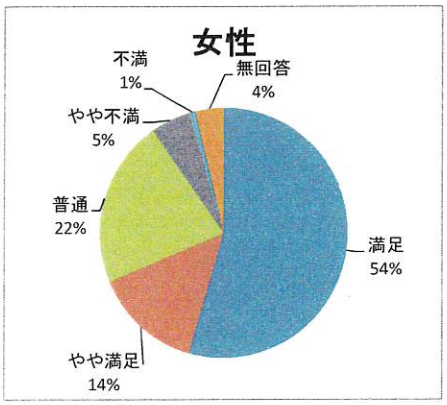


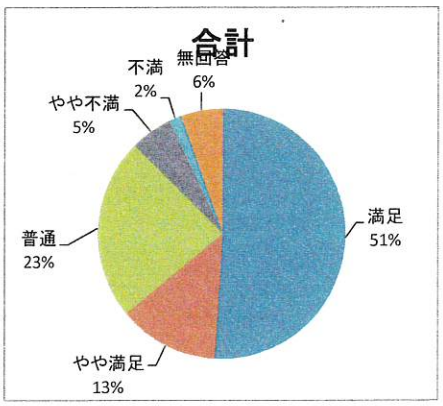


「ヒツクリコ展」 2017.10－2018.01

⑭アーツ前橋までの道順のわかりやすさ







資料１

（主な感想・意見）

●わかりにくい内容もあり、むずかしい。（女性・60代）

●難しい作品もわかりやすく解説が書かれていてよかった。（女性・30代）

●前橋文学館との共同？企画も今更な感じもしましたが…やるのは大変良いと思いますし内容も良いと感じました。"タイトル"はなるほどと思いました。（女性・40代）

●全体にわかりにくすぎます。良い作品も多いですが、これだけの説明のなさで見るにはかなり意識変革が必要です。いわゆる"つかみ"やアクセントがなして　たくさんの情報量でわかれというのは一般的とはいえません。（男性・60代）

●山川さんの《ハロー：グッバイ　伝達のテクネ》「ことば」のおもしろさ、多様性を考えさせてもらいました。また、文学館との連携プログラムがより現代の作品に深みをもたせ。（女性・30代）

●作品だけで構成されていない"余白"を感じることができて、心地良い展示かつ印象に残る展示でした。パフォーマンスも是非拝見したかったです。書がすばらしいのも印象。（女性・50代）

●「伝達」という役割以外の文脈における言葉の在り方の多様性を体感できました。（男性・20代）

●オープンエンドな施設、展らん会。今という時代を生きる人たちをつなげている。ありがとう。（女性・40代）

●5感をフルに使って美術館を周ったのは初めての体験でした。これが「現代美術館」というものなのだと、その完成度の高さに恐縮いたしました。（女性・20代）

●撮影可と不可のエリアの区別が観らん者に伝わっていないのか？今は何でもスマホで撮影していいと思われる時代？それでちょっと今日は嫌な気持ちに(勝手に…)なってしまいました。大澤兄弟、書のコーナー/河口さんの震災のところのコーナーとか良いなと印象に残りました。わかりにくいという言葉で簡単に片付けてはいけないなーとか思いました。どうも有難うございました。（女性・40代）

平成29年度　アーツ前橋事業評価調書（1）

資料１

基本事項	事業名	彼女たちのまなざし　アーツ前橋収蔵作品から		
	会期	平成30年2月2日（金）～平成30年3月4日（日）	開館日数	27 日間
	会場（ギャラリー）	アーツ前橋　ギャラリー1	実施方式	01自主企画・単独方式
	観覧料	一般　－ 割引　－	出品点数	16点
	担当者	学芸：忠　あゆみ　　事務：堺　大輔		
	目的・目標（総括表）	収蔵品の活用と認知を図り、資産価値の向上とシビックプライドの醸成に繋げる。		
	キーワード	女性作家、女性と美術、肖像画、多様な視点から作品を見る、モデルと画家		
	他団体との連携（共催、協力等）	なし		
	参加作家	木原千春、近藤嘉男、塩原友子、清水刀根、田中青坪、寺村サチコ、中村節也、南城一夫、三輪途道		
	関連イベント	こどもアート探検　2月24日（土） ギャラリートーク　2月25日（日）、3月3日（土）		

①インプット（投入）・・・用いた資源　②プロセス（活動）・・・戦略や手段の計画　③アウトプット（結果）・・・実施内容、実績
④アウトカム（成果）・・・どういう反応が得られたか　⑤インパクト・・・波及効果

①投入（支出）・③結果（収入）	印刷物等	ポスター（A3）	チラシ（A4）	館内マップ	セルフガイド	リーフレット	図録
		1000部	0部	2000部	0部	0部	0部
	収入／支出	収入（A）別表から転載	支出（B）別表から転載	収支比率（A）／（B）	入館者一人当たりコスト	観覧券売上収入（Aの一部）一般	割引 / 合計
	予算		800,000 円		307 円		
	決算		810,000 円		311 円		
	差額		10,000 円		4 円		
	予算／決算		101.3%		101.3%		
	会期一日あたり（決算）		30,000 円	－	－		

②内容・活動	［②内容］事業の概要 ［②活動］主な取組（手段）の結果 ・メディア等広報実績 ・新たな試み 図録 関連イベント 助成　など ●指標 来館者反応 手ごたえ アンケート	事業の概要（転記）	新収蔵作品を含むアーツ前橋の所蔵品を、作品の背景とともに紹介する。
		・広報戦略 ・新たな試み（転記）	1.従来展示されていない作品の選定を検討 2.作品の特質を生かした展示構　成 3.作品解説キャプションの充実
		広報実績［新規掲載や効果が大きかった媒体など、特別な案件］	読売新聞　　広報たかさき　H30.2.1 朝日ぐんま　H30.3.2 群馬テレビ　ニュースeye H30.2.3
		新たな試みの実績	・南城一夫の《寝女》を開館以来初出品した。 ・「コレクション展」というタイトルを廃止し、企画に即したタイトル「彼女たちのまなざし」、サブタイトル「アーツ前橋所蔵作品から」をつけた。 ・4つのセクションに分け、作品解説と作家プロフィール以外にもセクションごとの解説パネルを設置した。

③結果	入場者数（参考数値）上段：人数（人）下段：割合（%）※色付きは有料観覧者	一般	学生	65才以上	団体	高校生以下	招待券	割引等	視察	イベント	他	合計（人）	日平均（人）
												2,606	97
	有料観覧者率												

	指標	目標値	達成値	達成率	特記事項
一般指標	入場・参加者数	2,000 人	2,606 人	130.3 %	
	展覧会満足度	80 %	55.6 %	−24.4 pt	アンケートに、「満足」、「やや満足」と記入があった割合（無回答を除く）

平成29年度　アーツ前橋事業評価調書(2)

資料	事業名	彼女たちのまなざし　アーツ前橋収蔵作品から
③結果	進捗管理「スケジュール観」	(A.)概ね円滑に進んだ B.遅延気味であった( ) 開館後まで積み残しとなった事項( )
④成果	〔④成果〕 期待に対する結果 ・観覧者層のターゲット ・ねらい	観覧者層のターゲット(転記)：ターゲット：近隣住民、美術関係者 成果：幼少期に南城一夫と言葉を交わしたことがある方や、清水刀根の妹の知人など、作家と接点を持った方が作品を見に来場した。先月に亡くなられた塩原友子氏の作品を見に来た方も多く、近隣住民がゆかりの作家の作品と出会い、個々の作家の思い出と向き会う機会を提供することが出来た。一方、美術関係者からの反応は特に得られなかった。 ねらい1(転記)：1.所蔵品の文化的価値の提示、再評価 成果：初めて来場した方から木原千春氏の作品に惹かれたという声を多く聞いた。作家からイメージソースについて聞き取りを行ない、美人画から、女性美ではなく生き物としての人の造形の魅力を見出す作家の視点を紹介することができた。 中村節也・清水刀根の裸婦像2点を並べ、画家の特色を比較することを提案し、ギャラリートークでは来場者がそれぞれの違いを深く味わう機会となった。 ねらい2(転記)：2.市民にとって身近な美術鑑賞の場としての役割を担う 成果：・前橋の知っている場所を舞台にした作品を通して共感を抱いたり、懐かしさを感じる反応があった。 (例)「前橋公園は現代しか知りませんが、今も昔も人々にとって身近な存在なのかなと思いました。」「若い時代に絵を描いていてその思い出がよみがえりとてもなつかしく楽しい時間をいただきました。」 ※来場者のアンケートから
⑤波及効果	個別評価 ※記入日を()内に入れてください ※概ね1年経過毎に再確認して修正	<1～6は、記入項目の例・無い場合は削除。独自の評価項目の設定可。記入日を記載> *1. 参加作家のその後の活動を評価*⇒現存作家は、本展示以降も精力的に展示を行なっている。木原千春氏はBunkamura the galleryで「ブレイク前夜～次世代の芸術家たち」展に参加(2月24日から3月4日まで)。寺村サチコ氏はその後足利のギャラリー碧で展示「MY SWEET TOXICANTS」を開催している。(3月8日から3月20日まで)三輪途道氏は、現在高崎の一路堂CAFÉで展示「一路堂で会いましょう」を開催(2月17日から4月25日まで) *2. アーツの事業に対して、誰がどのような価値を見出したのかを評価* ⇒該当なし *3. 事業関係者(作家、運営、イベント参加者、地域住民)たちとの間で生まれた交流やその後の関係性の構築を評価*⇒出品作家やコレクターとの関係性を良好に維持することが出来た。 *4. 事業の実施に伴う波及効果*⇒該当なし *5. 地域資源の活用という点での効果*⇒前橋市収蔵の美術作品やゆかりの作家について近隣住民や来場者に周知する効果があった。 *6. 意図せざる(思わぬ)効果*⇒塩原友子氏の没後まもない時期に、氏の作品を紹介し、顕彰する機会のひとつとなった。

自己評価(担当者)					
	効率性 ①:③ 事業が効率的だったといえるか	1.非常に良い	2.良い	(3)普通	4.劣る
	合目的性 ②:④ 事業の目的を達成したといえるか	1.非常に良い	(2)良い	3.普通	4.劣る
	事業の将来性 ②:⑤ 館の事業に対し将来性があるか	1.非常に良い	2.良い	(3)普通	4.劣る
	社会的将来性 ③:⑤ 社会への影響に将来性があるか	1.非常に良い	2.良い	(3)普通	4.劣る
	課題・改善点	・作品選定が11月半ばまでずれ込んだため、印刷物の納品がぎりぎりのスケジュールになり全体的に滑り出した遅かった。別の展示事務と時期が重なっていたことが要因の一つだが、本来ならば細かくスケジュールを組んで出品作品を10月中に絞り込む必要があった。 ・作品の点数が少ないという声がアンケートで4件見られた。今回は比較的大型の作品が多く、展示スペースが限られているため、ゆとりある展示のために16点に絞ったが、展示としての密度が低い印象を与えたことに対して何らかの改善が必要だと感じる。展示の構成、展示意図の説明などが明確で必然性が感じられるよう、作品選定や会場構成に注意を払いたい。 ・地下の「公園デビュー」の来場者のアンケートでは、1階を見ずに直接地下へ向かう人もいた。素通りされない工夫として展示に関連性を持たせる、関連イベントを設けるなどの選択肢をよく検討できなかった。 ・同時期の作家の展示情報をアーツの広報と合せて発信すれば、作家の励みにもなり、来場者の関心をさらに広げる効果につながっただろう。			

引継ぎ事項(特記事項)		展示・搬出作業時に、展示作品の状態の調書を取ることが出来なかった。所蔵品展示に関して今後はスケジュールの中に展示作品のコンディションチェックを組み込み、長期的な保存や展示・貸出等に役立てるようにしたい。
コメント・意見	館長 副館長	作品管理についての対応は、ぜひ今後に活かしてほしい。収蔵作品を紹介する切り口として絵画や社会における「女性」の立場を意識させたのは、同時代性があった。その切り口をもっとアピールすることもできたのではないだろうか。
	運営評議会	

平成29年度　アーツ前橋事業評価調書（1）

資料１

基本事項	事業名	身体拡張2018　公園デビュー			
	会期	平成30年2月2日（金）～平成30年2月18日（日）		開館日数	12 日間
	会場（ギャラリー）	アーツ前橋　地下ギャラリー		実施方式	04実行委員会
	観覧料	一般　1800円（全日程）	1000円（一日）	イベント数	57 点
		割引　1000円（全日程）	600円（一日）		
	担当者	学芸：五十嵐　純　　事務：山田　一志			
	目的・目標（総括表）	美術のみならず表現方法の多様な可能性を紹介することで、芸術文化施設としての存立基盤を固める。			
	キーワード	自由で多様な身体表現の場、誰でもが表現者になり、つながり、刺激しあう空間			
	他団体との連携（共催、協力等）	主催：身体の芸術推進実行委員会 共催：アーツ前橋			
	参加作家	和合亮一	灰野敬二	中村ひろみ	村田峰紀、ほか
	関連イベント	中村ひろみ　ひとり芝居『初恋橋』			
		和合亮一　朗読とトーク「こころはからだ」			
		オープンマイクinアーツ前橋			
		灰野敬二ライブパフォーマンス			
		軋轢オーケストラ、など			

①インプット（投入）・・・用いた資源　②プロセス（活動）・・・戦略や手段の計画　③アウトプット（結果）・・・実施内容、実績
④アウトカム（成果）・・・どういう反応が得られたか　⑤インパクト・・・波及効果

①投入（支出）・③結果（収入）	印刷物等	ポスター（B2）	チラシ（A4）	館内マップ	セルフガイド	リーフレット	図録	
		1,000 部	20,000 部	0 部	0 部	0 部	0 部	
	収入／支出	収入（A）別表から転載	支出（B）別表から転載	収支比率（A）／（B）	入館者一人当たりコスト	観覧券売上収入（Aの一部）一般	割引	合計
	予算	1,400,000 円	1,400,000 円	100.0%	782 円	－	－	1,400,000 円
	決算	1,827,600 円	1,827,600 円	100.0%	1,020 円	376,400 円	51,200 円	427,600 円
	差額	427,600 円	427,600 円		239 円	－	－	−972,400 円
	予算／決算	130.5%	130.5%	100.0%	130.5%	－	－	30.5%
	会期一日あたり（決算）	152,300 円	152,300 円	－	－	31,367 円	4,267 円	35,633 円

②内容・活動	〔②内容〕事業の概要	事業の概要（転記）	演劇、ダンス、音楽など身体表現に関わる表現を、多岐にわたり紹介する。
	〔②活動〕主な取組（手段）の結果 ・メディア等広報実績 ・新たな試み 図録 関連イベント 助成　など	・広報戦略 ・新たな試み（転記）	1.市民が参加可能なWSや公演の実施 2.演劇×ダンスなど、普段行われないコラボレーションの実施 3.美術関係者以外への広報
		広報実績［新規掲載や効果が大きかった媒体など、特別な案件］	1月20日　読売新聞朝刊掲載　「身体表現に焦点　前橋でイベント」 2月3日　産経新聞朝刊掲載　「『公園』で探る表現　ジャンルを超えた50組」 2月5日　上毛新聞朝刊掲載　「詩の朗読や演劇　アーツ前橋　50組が日替わり披露」
	●指標 来館者反応 手ごたえ アンケート	新たな試みの実績	・アーツ前橋を表現の場として開放し、誰でもが表現者として存在できる場作り ・表現者同士のネットワーク形成のためのフォーラムやシンポジウムを会場内で開催 ・市内・県内で活動する表現者と協働して事業を実施 ・実行委員会内で業務を分担することで、SNSでの告知・報告の頻度を高めることができ、合計130本程度のfacebook投稿を行い、多くの方にリーチすることができた。54,705リーチ（2月23日）

平成29年度　アーツ前橋事業評価調書(2)

資料

事業名	身体拡張2018　公園デビュー

③結果

入場者数(参考数値) 上段:人数(人) 下段:割合(%) ※色付きは有料観覧者	一般	学生	65才以上	団体	高校生以下	招待券	割引等	視察	イベント	他	合計(人)	日平均(人)
	334						68			1,389	1,791	149
有料観覧者率												

③結果

	指標	目標値	達成値	達成率	特記事項
一般指標	入場・参加者数	1,200 人	0 人	0.0 %	
	展覧会満足度	80 %	63.8 %	-16.2 pt	アンケートに、「満足」、「やや満足」と記入があった割合(無回答を除く)

進捗管理 [スケジュール観]	A.概ね円滑に進んだ Ⓑ遅延気味であった(告知、事業詳細の決定) 開館後まで積み残しとなった事項(**公園利用者＝ゲストではない表現者への利用案内**)

④成果

[④成果]
期待に対する結果
・観覧者層のターゲット
・ねらい

観覧者層のターゲット(転記)	ターゲット:演劇、ダンス、音楽関係者、県内在勤在住在学の者
成果	実行委員に演劇、ダンス、詩、音楽といった多様な表現者をむかえ、プログラムを作成することで、他の事業との差別化と明確なターゲットの設定ができた。また、和合亮一氏や灰野敬二氏ら、全国的にも有名なゲストをお呼びすること、地域での活動を重ねる演劇等の団体の取り込みにより、通常の展覧会とは異なる観客層を対象とすることができた。
ねらい1(転記)	1.新たな客層(演劇等)の取り込み
成果	実行委員会形式をとり、市内を中心に活動を続ける多様な表現者たちと事業を行うことで、普段美術展を見に来る客層とは異なる演劇、ダンス、音楽に興味を持つ鑑賞者が多く見られた。また、「公園利用者」としての参加者が表現をすることのできる機会を持つことで、それを見に来る鑑賞者など幅の広い客層を得られた。
ねらい2(転記)	2.幅広い芸術体験の提供
成果	誰でも画主体的に参加することで、自由に会場を使うことができる「公園利用」の制度を設けることで、鑑賞だけではない主体的な参加者や初めて身体表現に触れる場を提供することができた。また、実行委員会のメンバーが企画を行うことで、これまで行うことのできなかった演劇ワークショップや音楽パフォーマンス、さらにはそこから生まれたコラボレーションなど、多様な体験を提供することができた。
ねらい3(転記)	
成果	

⑤波及効果

個別評価
※記入日を()内に入れてください
※概ね1年経過毎に再確認して修正

<1～6は、記入項目の例・無い場合は削除。独自の評価項目の設定可。記入日を記載>

*1. 参加作家のその後の活動を評価⇒平*成30年3月31日に開催される「太陽の鐘完成記念式典・オープニングイベント」でのパフォーマンスの依頼を受け、地域の児童らを含めたダンス・合唱パフォーマンスを行う。(3月27日)
2. アーツの事業に対して、誰がどのような価値を見出したのかを評価 ⇒会場内で表現活動を行うため、主体的に申請書を提出した「公園利用者」が33団体、延べ159名いた(3月27日)
3. 事業関係者(作家、運営、イベント参加者、地域住民)たちとの間で生まれた交流やその後の関係性の構築を評価⇒公園利用者(ゲストではない方)たちでライブハウスを借りてライブが開催され、またゲストでお呼びした和合亮一さんの詩を3月11日に朗読する会に本事業参加者が企画、参加しメディアにも取り上げられた。(3月23日)
4. 事業の実施に伴う波及効果⇒滞在制作事業で同時期に滞在していたアーティストのワークショップや制作に協力、参加するなどの交流が生まれた。
5. 地域資源の活用という点での効果⇒1990年初頭より、群馬県内のプロアマ問わず多様な演劇公演を見続けてきた清水保彦氏の千数百枚に及ぶチラシやパンフレットを展示し、市内・県内の演劇の歴史の厚みを提示することができた。(3月23日)
6. 意図せざる(思わぬ)効果⇒該当なし。

平成29年度　アーツ前橋事業評価調書(3)

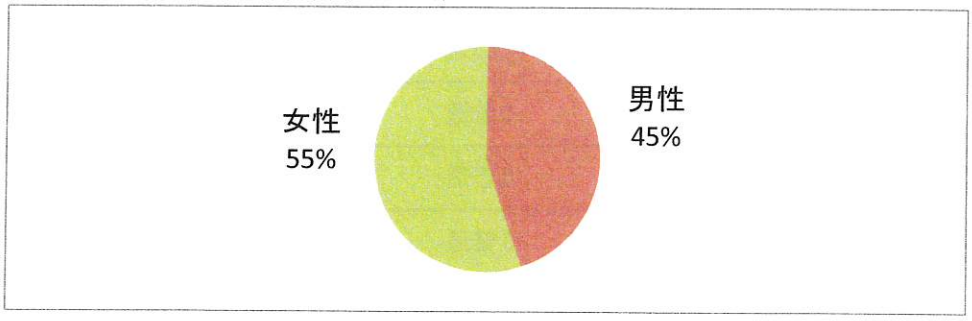
資料１

	事業名	新たな試みの実績			
自己評価（担当者）	効率性 ①:③ 事業が効率的だったといえるか	1.非常に良い	2.良い	③普通	4.劣る
	合目的性 ②:④ 事業の目的を達成したといえるか	1.非常に良い	②良い	3.普通	4.劣る
	事業の将来性 ②:⑤ 館の事業に対し将来性があるか	1.非常に良い	②良い	3.普通	4.劣る
	社会的将来性 ③:⑤ 社会への影響に将来性があるか	①非常に良い	2.良い	3.普通	4.劣る
	課題・改善点	実行委員会形式をとることで、美術館の枠を超えた表現者とのネットワーク形成や演劇やダンス、音楽といった身体表現のジャンルの方々を巻き込むことができ、館の利用方法の拡充ができた一方で、通常とは異なる事業進行や運営方法を取るための準備が不足してしまい、事前準備に遅れが出てしまった。 また、本事業でできた関係性途切れさせることなく展開していくことが今後の課題として残される。			
引継ぎ事項（特記事項）		H30年度も引き続き実行委員会が開催され、活動を続ける予定である。			
コメント・意見	館長 副館長	自由で能動的な活動を誘発する場を「公園」と呼んだ企画を実行委員たちが運営上成功させたのは大変優れていたと思う。ジャンルを超えた委員同士の交流ももうひとつの成果として今後に期待したい。こうした活動に対して美術館としてできることは何かをよく検討していきたい。			
	運営 評議会				

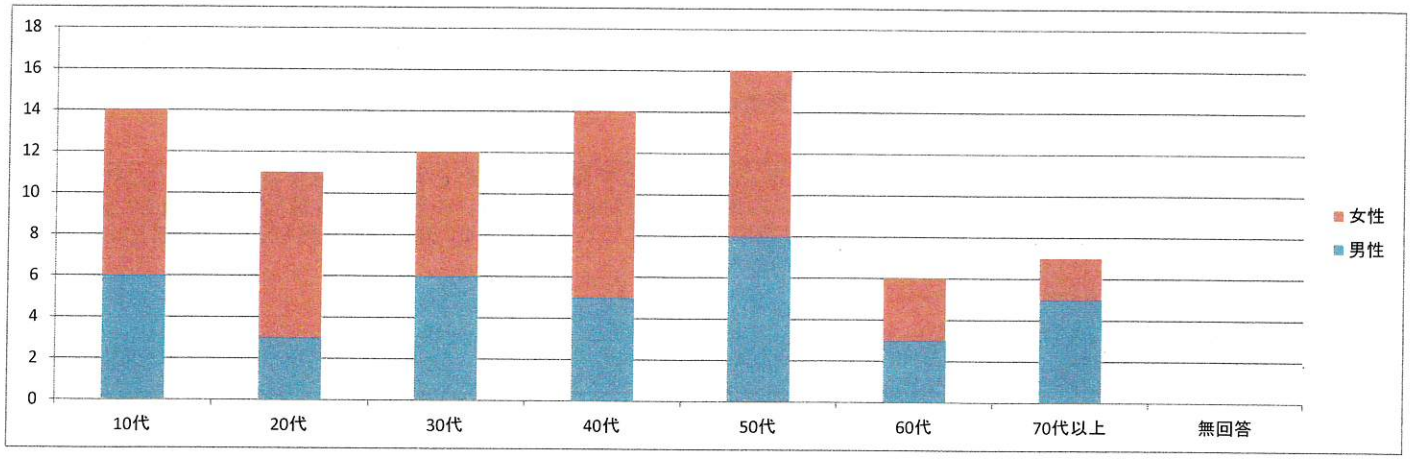
最終更新日：H30.3.28

資料7

①アンケート回答数（80人）

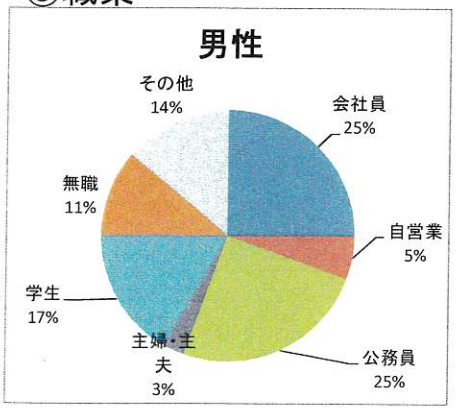


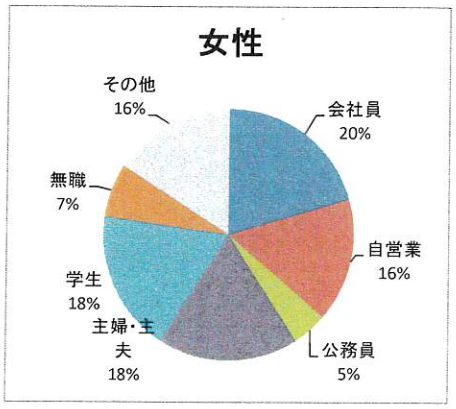
②年代

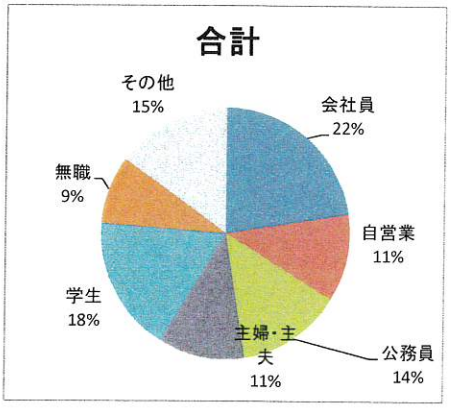


「彼女展」「公園デビュー」 2018.02－2018.2, 3

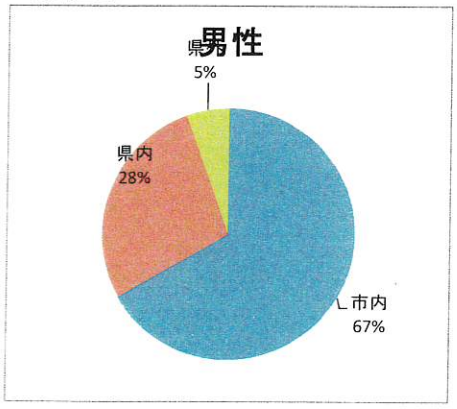
③職業

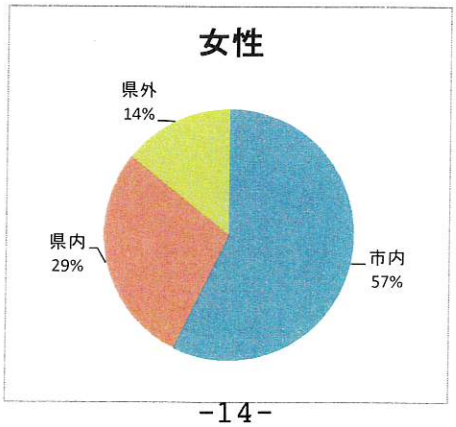


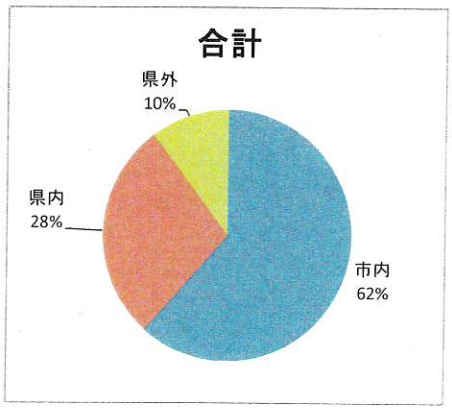




④住まい

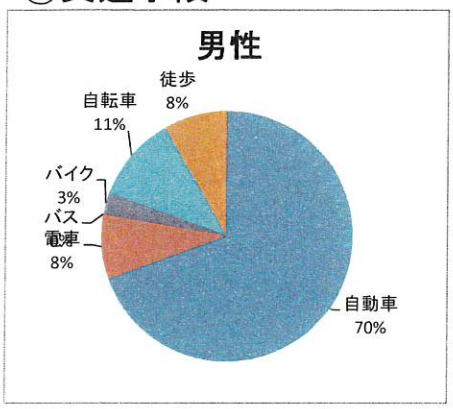


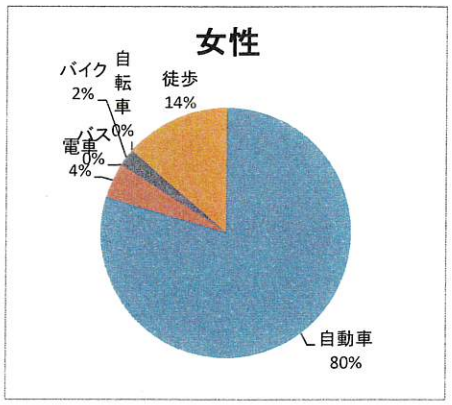


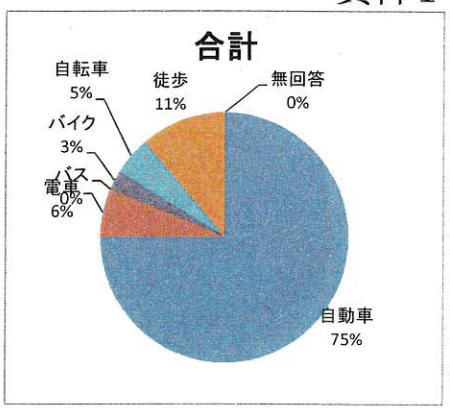


資料１

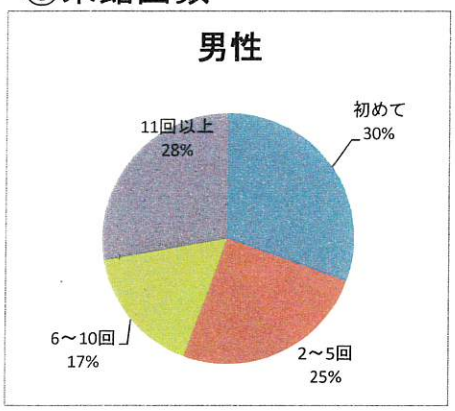
⑤交通手段

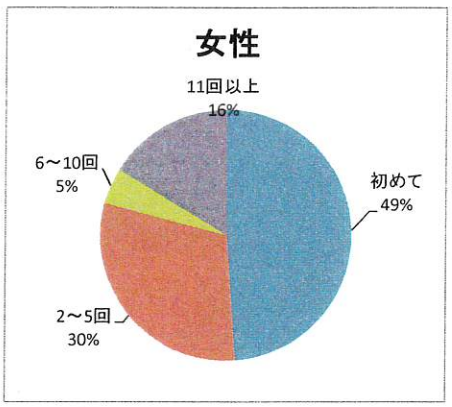


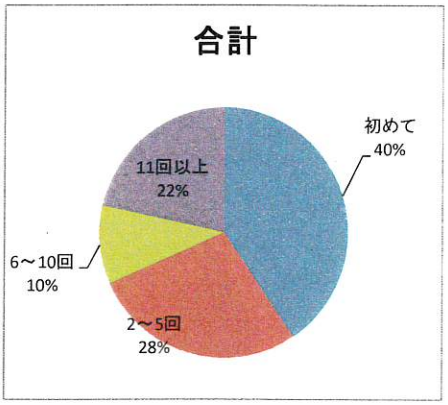




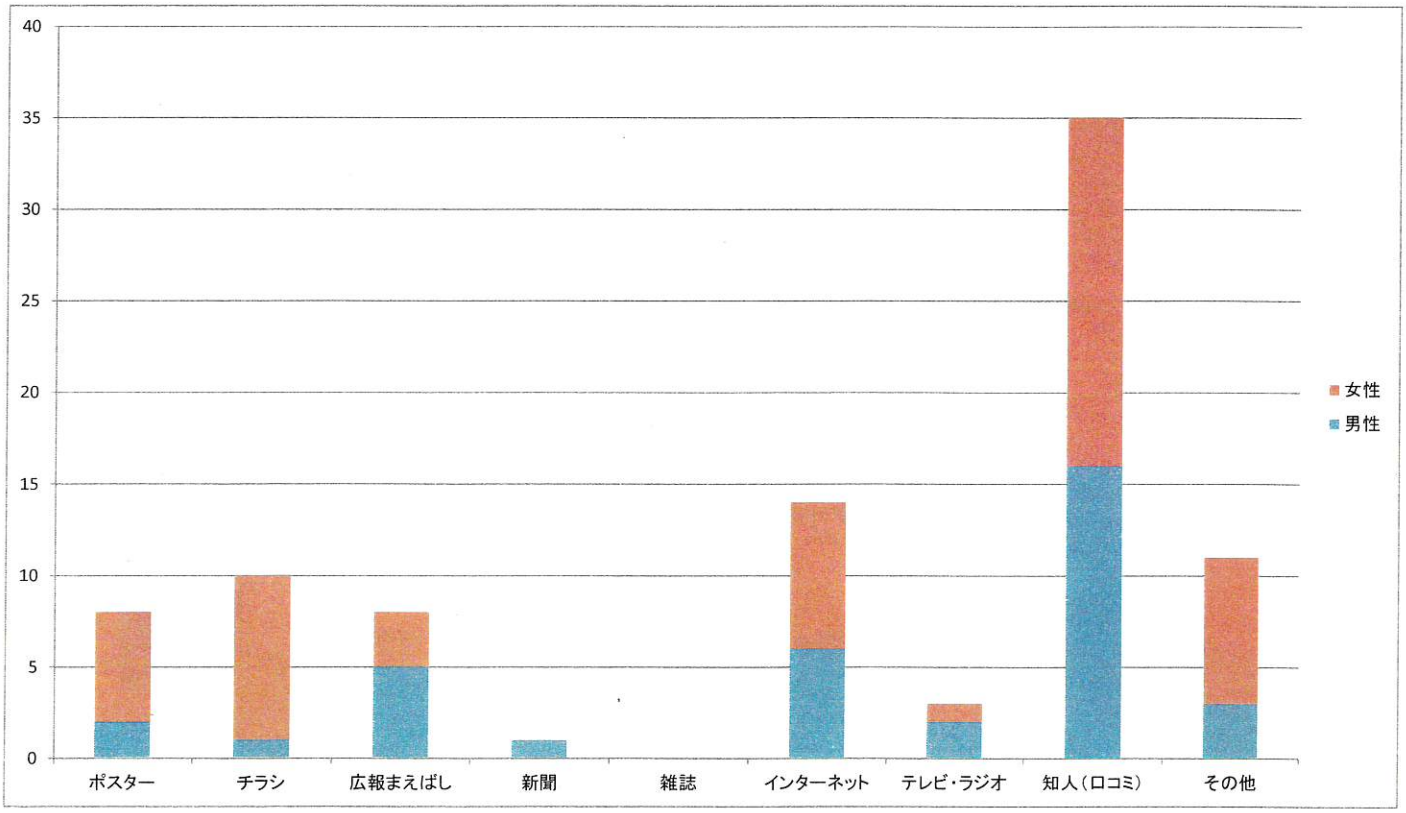
⑥来館回数



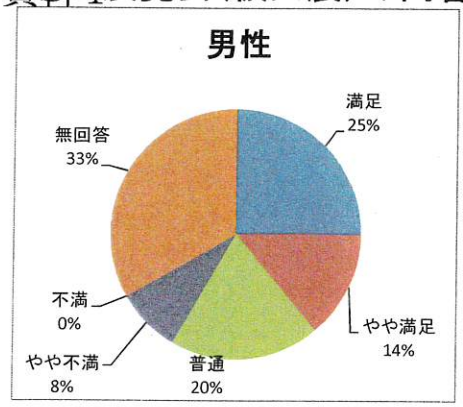


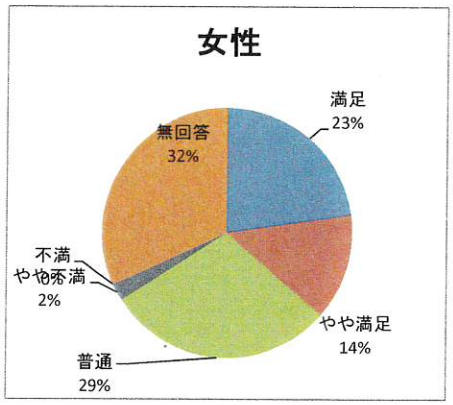


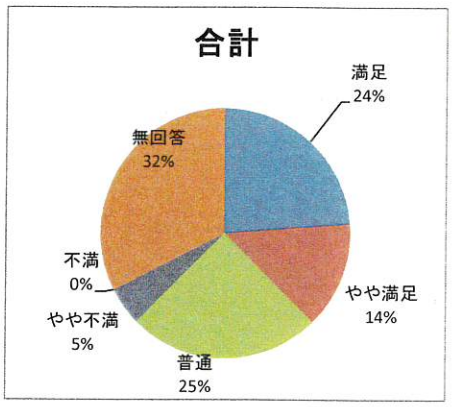
⑦企画展等を知った方法（※複数回答あり）



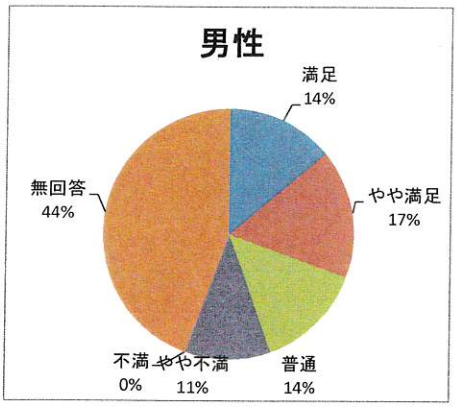
資⑧-1展覧会（彼女展）の内容

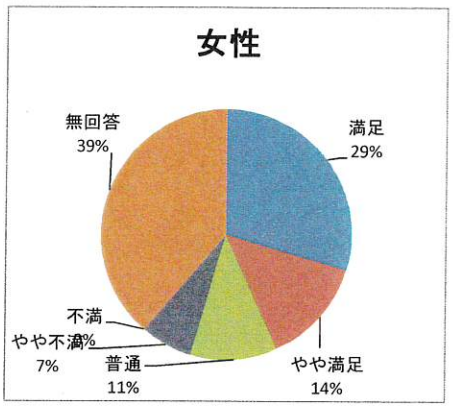


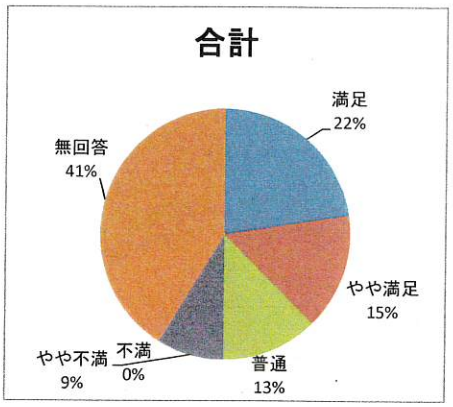




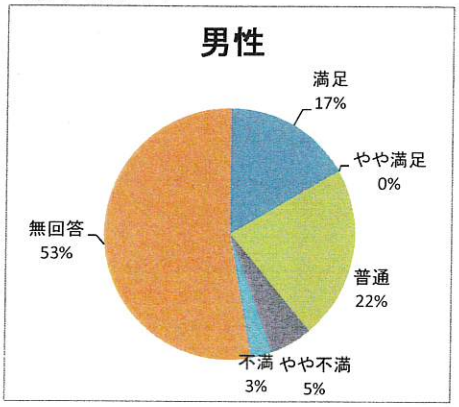
⑧-2公園デビューの内容

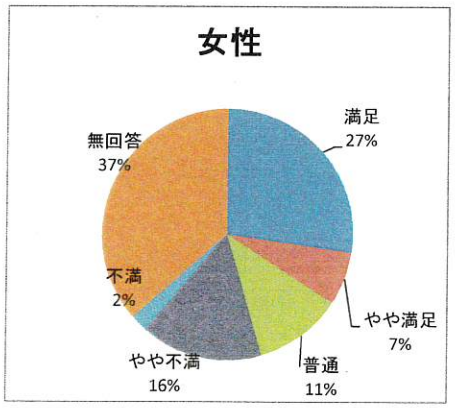


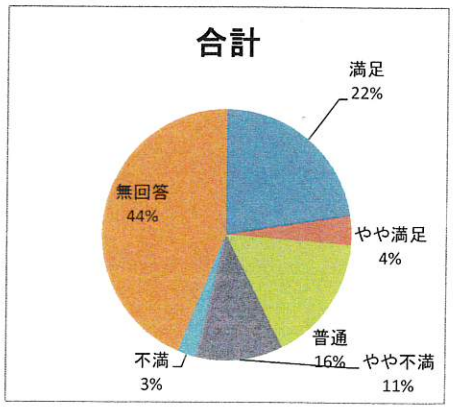




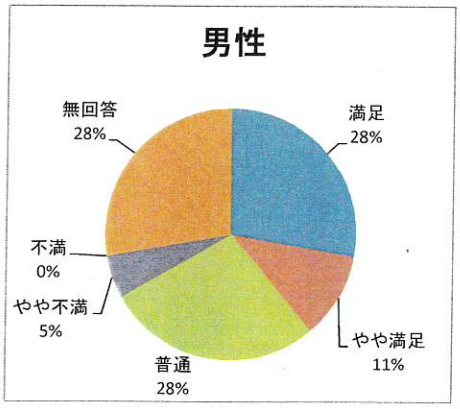
⑨入館料

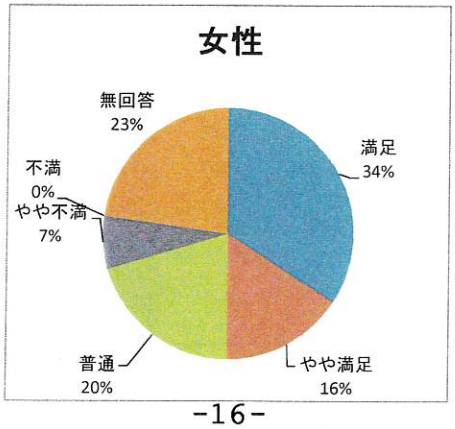


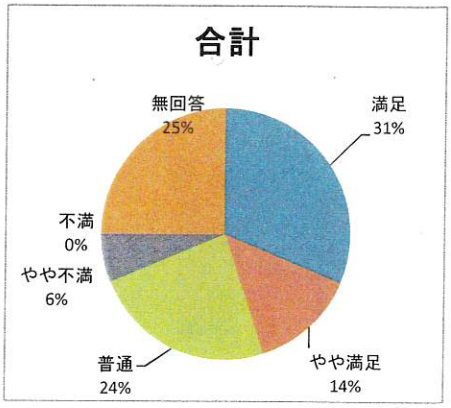




⑩作品のみやすさ

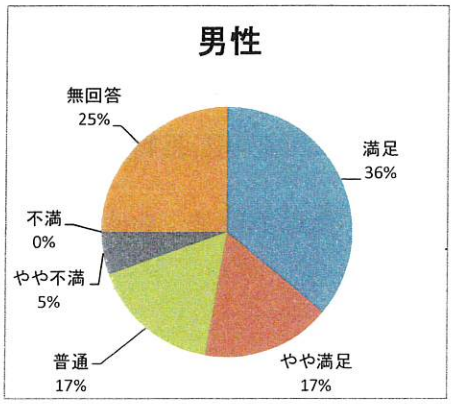


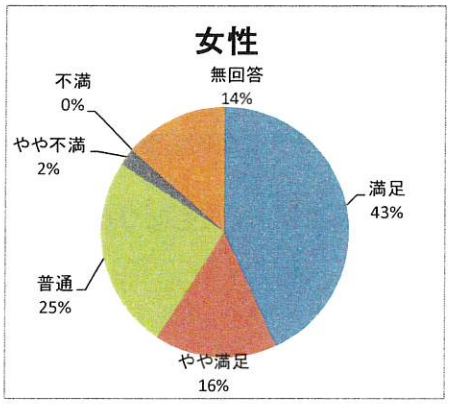


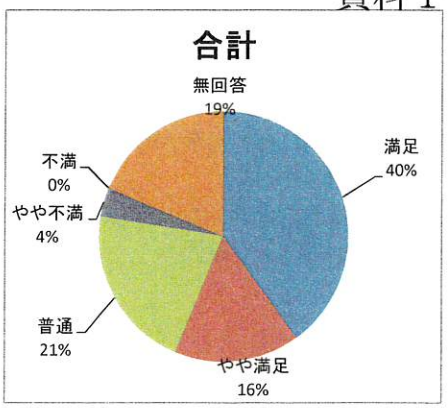


資料１

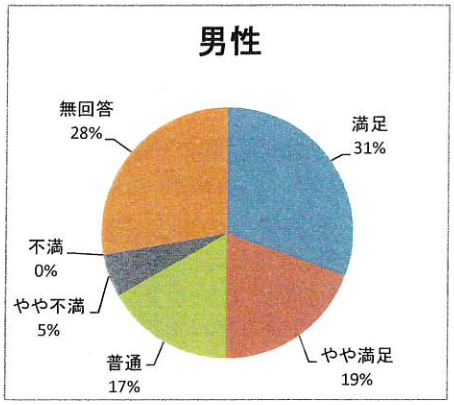
⑪スタッフの対応

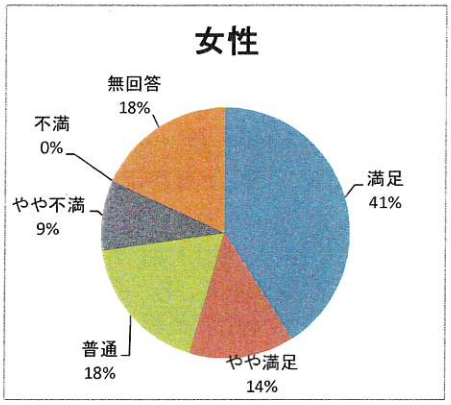


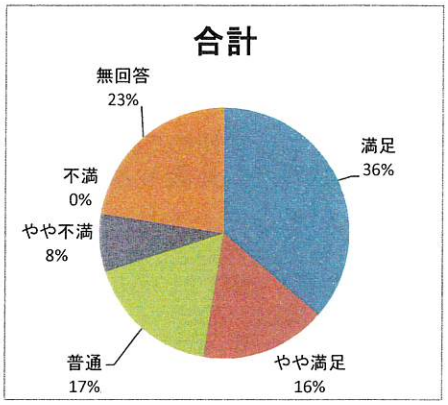




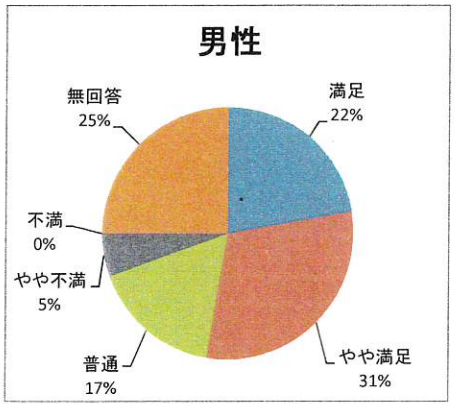
⑫施設の利用のしやすさ

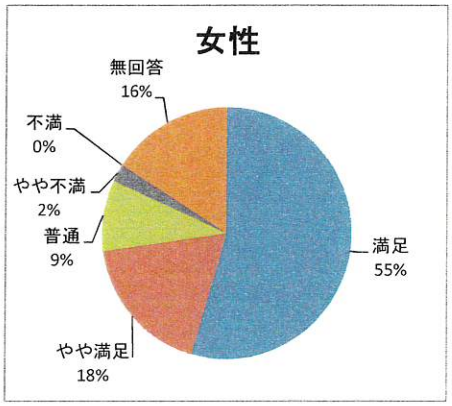


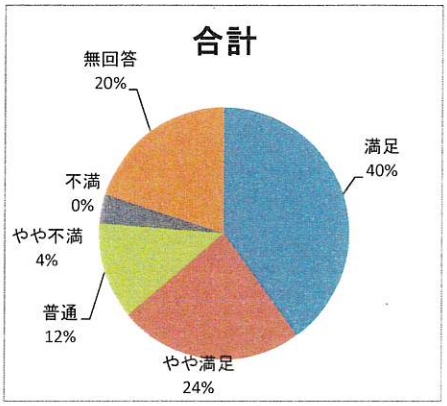




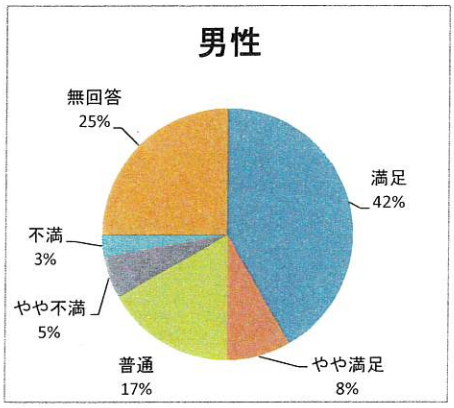
⑬アーツ前橋全体の印象

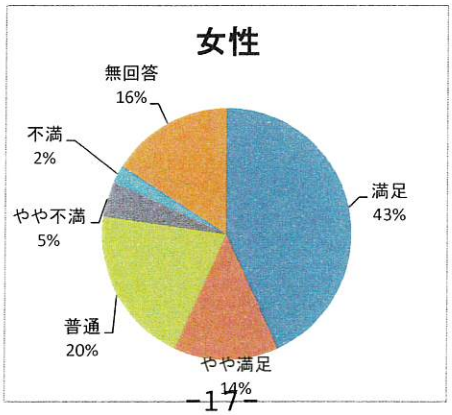


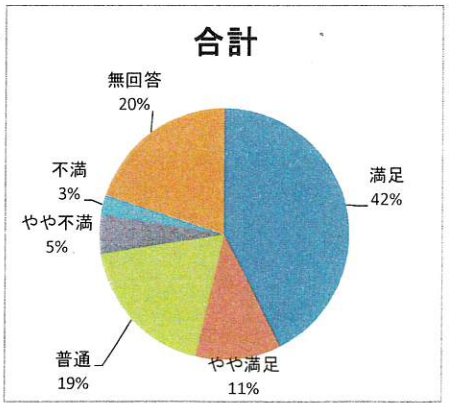




⑭アーツ前橋までの道順のわかりやすさ







（彼女たちのまなざし展）
●様々な角度から観賞できるのが良い（男性・20代）

●作品数が少ないですが、見やすかったです。コンセプトも良いと思いました。（女性・40代）

●展示作品が少ない、古くさい感～すみません！（女性・50代）
●コレクションの展示が、その人、時代そしてさまざまなものの関係の表現になるということ強く感じ感動いたしました。（男性・50代）

●若い時代に絵を描いていてその思い出がよみがえりとてもなつかしく楽しい時間をいただきました。ありがとうございました（女性・70代）

（公園デビュー）
●様々な表現者達の化学反応がおもしろい（女性・50代）

●美術館での企画とは思えない自由さ。（男性・20代）

●観覧型か参加型か、内容がはっきりわからなかった（女性・50代）
●わかりにくいイベントだなと思いました。外の人間はちょっと入りにくいのではないかなと感じました。（女性・40代）
●灰野敬二さんをみにきました。すごくよい企画ですよね。もっと広がっていろいろやっていただきたい。前橋アートフェスみたいにライブいろいろあったりなったらたのしいな（女性・40代）

●公園デビューで初めて来館しましたが、明るい雰囲気で見やすかったです。caboさんの公演目的で来たのですか、その他の方の発表や通常の展示も面白く見させていただきました。ありがとうございました。（女性・20代）

●チラシがちょっとわかりにくいと思いました。内容をHPで良くしらべてみました。演劇とか好きなので来ました。スペースの有効活用など、イベントをやる事はとても良いと思いましたが、正直ちょっと参加しにくいなと思いました。しきい（？）が高い感じ？いろいろな方が楽しめる美術館として、もっとアピールして欲しいなと感じています。一部の人達のものではないので…。今後も期待して、色々拝見したいと思います。（勝手を申してすみません）※乱筆乱文、失礼しました。（女性・40代）

平成29年度　アーツ前橋事業評価調書（1）

資料１

基本事項	事業名		表現の森継続事業					
		事業1	時期・日数	石坂亥士・山賀ざくろ×特別養護老人ホームえいめい 全6回（4/21、5/29、7/28、9/15、10/20、1/12）	会場	特別養護老人ホームえいめい	人数	471人
		事業2	時期・日数	滝沢達史×アリスの広場 全10回（4/19, 5/10, 6/7, 7/19, 8/2, 8/23, 11/29,12/20, 1/24, 2/8）	会場	アリスの広場、アーツ前橋	人数	98人
		事業3	時期・日数	中島佑太×南橘団地 全4回（2/4, 2/11, 3/11, 3/25）	会場	南橘公民館	人数	172人
		事業4	時期・日数	廣瀬智央・後藤朋美×のぞみの家 全7回（11/2、11/4、11/18、11/21、2/17、3/15、3/23）	会場	のぞみの家、利根川河川敷、前橋公園など	人数	98人
	担当者		今井学芸員、小田学芸員、山田主任					
	目的・目標（総括表）		・アート／美術館が社会課題に対してどのような役割を果たせるのかを考える機会を創出する。 ・アーティストを軸にしたアートプロジェクトを運営することのできる人材を育成する。 ・地域の福祉／教育現場との連携関係を築く。					
	キーワード		美術館のアウトリーチ、人材育成、福祉や医療や教育の現場、施設や地域との連携					
	他団体との連携（共催、協力等）		NPO法人ぐんま若者応援ネット　アリスの広場、社会福祉法人清水の会特別養護老人ホームえいめい、社会福祉法人上毛愛隣社のぞみの家、桃川小学校、NPO法人まえばしプロジェクト、群馬大学、文化庁					
	参加作家		石坂亥士、山賀ざくろ、滝沢達史、中島佑太、廣瀬智央、後藤朋美					
	関連イベント・人数		・アーティスト・イン・スクール（中島佑太、桃川小学校）：アーツ前橋主催事業					
			・滝沢達史×アリスの広場　ゆったりアウトドアプログラム：アリスの広場主催事業					
			・文化庁と大学・研究機関等との共同研究事業「芸術文化による社会包摂度の評価手法・ガイドラインの構築とアート実践による検証研究」：文化庁、群馬大学主催事業					

①インプット（投入）・・・用いた資源　②プロセス（活動）・・・戦略や手段の計画　③アウトプット（結果）・・・実施内容、実績
④アウトカム（成果）・・・どういう反応が得られたか　⑤インパクト・・・波及効果

①投入（支出）・③結果（収入）	印刷物等		中島佑太WSチラシ 第一回	中島佑太WSチラシ 第三回				
			1600枚	1600枚				
	財務指標		収入（A）別表から転載	支出（B）別表から転載	収支比率（A）／（B）	一人当たりコスト	参加費収入（Aの一部）一般	割引	合計
		予算	－	4,492,000 円	－	5,354 円	－	－	－
		決算	－	2,977,060 円	－	3,548 円	－	－	－
		差額	－	−1,514,940 円	－	−1,806 円	－	－	－
		予算／決算	－	66.3%	－	－	－	－	－

②内容・活動	[②内容] 事業の概要	事業の概要（転記）	①アリスの広場×滝沢達史、②南橘団地×中島佑太、③市内高齢者施設×石坂亥士／山賀ざくろ、④のぞみの家×廣瀬智央／後藤朋美　が、定期的なワークショップやリサーチプログラムを行う。
	[②活動] 主な取組（手段）の結果 ・メディア等広報実績 ・新たな試み ・関連イベント 助成　など	・広報戦略 ・新たな試み（転記）	事業の反省や課題を考えながら、関係各所との連携関係を深める。また、プロジェクトを広く周知するための記録媒体の拡充を図る。
		広報実績［新規掲載や効果が大きかった媒体など、特別な案件］	・朝日新聞9月2日付「脱引きこもり　アートで支援」 ・表現の森特設サイトにおける記録 限られたコミュニティに時間を掛けてアプローチをするプログラムであるため、特設サイトにおいて、実施回ごとにその報告や関係者の声を掲載している。 （えいめい4記事、アリス13記事、南橘6記事、のぞみ0記事）
	●指標 来館者反応 手ごたえ アンケート	新たな試みの実績	・表現の森に参加するアーティストやコーディネータを中心とした勉強会を1回実施（6/16） ・えいめい文化祭でのプロジェクトの展示（11/20-25）、えいめいの家族会での活動報告(3/25) ・文化庁と群馬大学主催によるえいめいでの活動の評価に関する3回の勉強会を開催（2/5, 2/23, 3/9）

平成29年度　アーツ前橋事業評価調書(2)

資料1

	事業名	表現の森継続事業				
③結果	数値目標	指標1	目標	ワークショップ実施回数　36回	実績	27回
		指標2	目標	参加者数　400人	実績	839　人
		コミット人数(事業・イベント等参加者数・実績)				
	定性目標	定性目標(転記)	1.美術館が地域のハブのような存在となる 2. アートを通じた体験から、生活の中に生きやすさや楽しさが生まれる 3. 2020年に向けた美術館の新しい取り組みを発信する			
		実績	H28年度に企画展事業として始め、H29年度で二年目の事業を終了した。H30年度にも継続する予定だが、協働する施設やコミュニティの側からアーツの活動の重要性を認めてくれるようになってきた。市の主催事業から、施設が自主的にプログラムの一部を行うなど、施設内部に活動が浸透しつつある。また、一部の活動は、東京都が行っているTURNフェスでアーツ前橋の活動が取り上げられるなど、美術館の活動が県外からも美術館の新しい取り組みとして評価される機会があった。			
	進捗管理 [スケジュール観]	(A.)概ね円滑に進んだ B.遅延気味であった(内容:　　) 開館後まで積み残しとなった事項(　　)				
④成果	[④成果] 期待に対する結果 ・観覧者層のターゲット ・ねらい	観覧者層のターゲット(転記)	美術館から精神的／物理的にもアクセスが最も難しいと考えられる人			
		成果	引きこもりや不登校の若者たち(アリスの広場)は、休館日の来場者のいない美術館を利用することで、自宅とフリースペース以外の場所である美術館に足を運ぶきっかけつくりとなった。高齢者(えいめい)は、死を迎える前の穏やかな時間をより文化的な生活を提供することに寄与することができた。			
		ねらい1(転記)	1. アート／アーティストを通じて福祉／医療／教育における社会課題を見つめ、美術館へのアクセスに困難を抱える人たちへプログラムの参加を促進する			
		成果	4プロジェクトともに、連携する団体との関係性の構築はもちろんのこと、コーディネータを務める関係各所との連絡も緊密にスムーズに行うことができた。特に、南橋団地でのプロジェクトでは、群馬大学と協働することで、WSを通じて将来教員になる若者たちに美術のもつ可能性を学んでもらえたことも、大きな収穫であった。			
		ねらい2(転記)	2. アウトリーチプログラムを通じて、美術館へのインリーチへ繋げる。			
		成果	物理的にアーツ前橋に足を運ぶプログラムを組んだのはアリスの広場だけだった。美術館が館外で活動することにより、アーツ前橋の活動を知ってもらうきっかけにはなったが、実際に美術館へのインリーチが繋がったかは不明である。特別養護老人ホームの例などを考えると、ねらいの設定段階ですでに矛盾が生じていたことを反省している。美術館のアウトリーチの目的をどこに置くべきかをもう一度考える必要性があると感じている。			
		ねらい3(転記)				
		成果				
⑤波及効果	個別評価 ※記入日を()内に入れてください ※概ね1年経過毎に再確認して修正	<1～6は、記入項目の例・無い場合は削除。独自の評価項目の設定可。記入日を記載> *1. 参加作家のその後の活動を評価*⇒滝沢達史は、アリスの広場との活動が評価され、東京都のTURNプログラムへの参加が決まった。最初のTURNフェスでは、東京都美術館でアリスの広場での活動を展示した。 *2. アーツの事業に対して、誰がどのような価値を見出したのかを評価* ⇒医療や福祉の関係者が、自分たちの関わる分野にもアートの大きな可能性があることを見出した。アリスの若者たちにとっては、アーツ前橋が自分たちにとって安全な場所であるという認識が生まれ、アーティストの人生観に出会うことで、今後の社会生活への新しい視点を見つけられた。また、高齢者施設では、日常生活の中だけでは、見られない高齢者の反応をアーティストの活動を通じて施設のスタッフが気がついた。南橋団地では、普段の図工の授業とは異なる創作体験を子どもたちが楽しんだ。 *3. 事業関係者(作家、運営、イベント参加者、地域住民)たちとの間で生まれた交流やその後の関係性の構築を評価*⇒作家を中心にしたプロジェクトチームを築くことができた。アーツ前橋と施設という二つの関係性ではなく、その間を取り持つコーディネータが円滑に活動を進めてくれた。施設側が、その活動の必要性を強く感じてくれたのも、アーティストと参加者の関係性が十分に構築されたからという理由による。 *4. 事業の実施に伴う波及効果*⇒複数年、事業を継続することで、福祉・医療・教育の分野に関わる人材から自発的に芸術に関わる活動が波及していくことを目指す。 *5. 地域資源の活用という点での効果*⇒該当なし。 *6. 意図せざる(思わぬ)効果*⇒該当なし。			

平成29年度　アーツ前橋事業評価調書(3)

資料１

	事業名	表現の森継続事業				
自己評価（担当者）	効率性 ①:③ 事業が効率的だったといえるか	1.非常に良い	2.良い	(3.)普通	4.劣る	
	合目的性 ②:④ 事業の目的を達成したといえるか	1.非常に良い	(2.)良い	3.普通	4.劣る	
	事業の将来性 ②:⑤ 館の事業に対し将来性があるか	(1.)非常に良い	2.良い	3.普通	4.劣る	
	社会的将来性 ③:⑤ 社会への影響に将来性があるか	(1.)非常に良い	2.良い	3.普通	4.劣る	
	課題・改善点	年度ごとに前年度の事業の反省を踏まえ、事業を設計しなおす必要性があるため、年度初めの事業の開始が遅れる傾向にある。年度の早い時期に、作家やコーディネータとの調整を緊密に行い、事業をスムーズに開始していきたいと思う。また、プロジェクトによっては、記録が滞ることもあり、一般への情報の公開が遅れることもあるため、誰が何のために記録を行うのかという意識をプロジェクトチーム内で確実に共有しておく必要性がある。来年度は、もう少し新聞などメディアへのアプローチを行い、活動の周知に努めたいと思う。				
引継ぎ事項（特記事項）		特に無し				
コメント・意見	館長 副館長	展覧会でもイベントでもない方法で継続している事業であり、地域の団体と協働する当館の特徴を活かした事業になっている。これまでは作家や施設の要望を丁寧に汲んできた成果があるので、目的や成果を明確に示していく段階に入る必要があると思われる。				
	運営 評議会					

最終更新日：H30.3.28

資料1

平成29年度　アーツ前橋事業評価調書（1）

基本事項

事業名	滞在制作（海外）					
事業1	アーティスト	ルイサ・ウンガル	期間	3/7-5/6	日数	61
事業2	アーティスト	ケレン・ベンベニスティ	期間	4/11-4/19 調査 6/4-7/28 滞在	日数	64
事業3	アーティスト	イルワン・アーメット ＆ ティタ・サリナ	期間	2017/11/14 -2018/2/3	日数	85
担当者	五十嵐学芸員、佐藤副主幹					
目的・目標（総括表）	多様な国や地域で活動するアーティストを地域に紹介し、創作活動を支援。また、海外のアーティストの目を通して地域資源の発掘につなげる。					
キーワード	創作活動を支援、地域資源の発掘					
他団体との連携（共催、協力等）	コーディネート業務を一部外部団体に委託					
参加作家	ルイサ・ウンガル	ケレン・ベンベニスティ	イルワン・アーメット＆ティタ・サリナ			
関連イベント・人数	ルイサ・ウンガル　オープンスタジオ／アーティスト・トーク　5月4日					
	ケレン・ベンベニスティ　オープンスタジオ／アーティスト・トーク　7月22日、23日					
	イルワン・アーメット＆ティタ・サリナ　オープンスタジオ／ワークショップ／アーティスト・トーク　1月13日、14日					

①インプット（投入）・・・用いた資源　②プロセス（活動）・・・戦略や手段の計画　③アウトプット（結果）・・・実施内容、実績
④アウトカム（成果）・・・どういう反応が得られたか　⑤インパクト・・・波及効果

①投入（支出）・③結果（収入）

印刷物等	堅町スタジオサインシート					
	3 部	0 部	0 部	0 部	0 部	0 部

財務指標	収入（A）別表から転載	支出（B）別表から転載	収支比率（A）／（B）	一人当たりコスト	参加費収入（Aの一部）一般	割引	合計
予算	-	4,374,600 円	-	19,443 円	-	-	
決算	-	3,568,685 円	-	15,861 円	-	-	
差額	-	-805,915 円	-	-3,582 円	-	-	
予算／決算	-	81.6%	-	-	-	-	

②内容・活動

[②内容] 事業の概要	事業の概要（転記）	国内外で活躍する外国人作家を招聘し、滞在制作活動を行なう。
[②活動] 主な取組（手段）の結果 ・メディア等広報実績 ・新たな試み ・関連イベント 助成 など ●指標 来館者反応 手ごたえ アンケート	・広報戦略 ・新たな試み（転記）	アジアを中心とした地域のアーティストを招聘し、地域の外国人との交流を生む。広報誌へのオープンスタジオの情報掲載。
	広報実績［新規掲載や効果が大きかった媒体など、特別な案件］	2017,3,16 上毛新聞 （ルイサ・ウンガル） 2017,7,21朝日新聞 「絹産業と水」映像や造形に （ケレン・ベンベニスティ）
	新たな試みの実績	・近隣の日本語学校の学生などへの告知 ・市内・県内にとどまらないリサーチの展開と外部への協力依頼によって滞在アーティストを通した交流が生まれた（美術館、個人等）

③結果

数値目標				
指標1	目標	招聘アーティスト数	実績	3
指標2	目標	イベント回数	実績	5
指標3	目標	参加者数	実績	279
コミット人数（事業・イベント等参加者数・実績）				279

定性目標		
定性目標（転記）	・アーツ前橋、竪町スタジオが、在橋外国人の居場所、または事業への参加の一つとして確立する。 ・招聘外国人芸術家による芸術文化の発信拠点となる。 ・招聘外国人芸術家の感性基づくプランニングの地域へのフィードバック
実績	・留学生・研修生を交えたプログラムを開催し、それに参加した学生ら中心となって、日本人を含む多様な国籍の若者らで集う自主的な活動を開始した。（イルワン＆ティタ） ・現在でも伝統的な方法で養蚕を行う農家を取材し、共同制作を行うなど、外国人アーティストの視点から文化的価値を再発見。（ケレン）

平成29年度　アーツ前橋事業評価調書(2)

資料1

	事業名	滞在制作(海外)	
③結果	進捗管理 [スケジュール観]	(A)概ね円滑に進んだ B.遅延気味であった(内容:　　) 開館後まで積み残しとなった事項(　　)	
④成果	[④成果] 期待に対する結果 ・観覧者層のターゲット ・ねらい	観覧者層のターゲット(転記)	近隣住民、市内在住者
		成果	それぞれのパブリックプログラムでは、地域住民の方も参加し、リサーチに協力いただいた県内施設(水質調査センター、水道局、養蚕業)の方々や(ケレン)、市内で日本語を学ぶ外国人留学生(イルワン＆ティタ)ら、美術館の従来の来館者とは異なる層が訪れ、リサーチをきっかけに交流が生まれた。
		ねらい1(転記)	1.地域資源の発掘
		成果	・民話や郷土芸能の調査を地域住民への聞き取りや文献から調査(ルイサ) ・前橋市の豊富な水資源の歴史やその価値、現在も続く絹産業を見つめなおす調査(ケレン) ・近年市内にも増え続ける留学生や研修生らとの交流を生み出し、相互理解の場作り(イルワン＆ティタ)
		ねらい2(転記)	2.海外での発信
		成果	・H27年度招聘のアーティスト、ダラ・リーブスは本事業で制作した絵画作品をオランダで発表。 ・H28度招聘のアーティスト、アンナ・ヴィットは本事業で制作した映像作品をドイツで発表。
		ねらい3(転記)	3.多文化交流の機会創出
		成果	・地域のアーティストや地域住民との交流の機会を創出した ・養蚕農家との共同制作(ケレン) ・日本語学校に通う留学生、県内で働く研修生らとの交流と制作協力(イルワン＆ティタ)
⑤波及効果	個別評価 ※記入日を()内に入れてください ※概ね1年経過毎に再確認して修正	<1～6は、記入項目の例・無い場合は削除。独自の評価項目の設定可。記入日を記載> *1. 参加作家のその後の活動を評価⇒ケレン・ベンベニスティは、本体在世制作した作品をもとにイスラエルで2つの展覧会を予定している(ケレン)。H27年滞在のダラ・リーブス、H28年滞在のアンナ・ヴィットらが、それぞれ前橋で制作を開始し、完成した作品を海外で発表した。* *2. アーツの事業に対して、誰がどのような価値を見出したのかを評価⇒水質検査や郷土芸能、絹産業など、美術とは異なるジャンルの方々の制作やリサーチへの積極的な協力が得られた。外国人留学生との交流を通して、日本語学校側からも中心市街地との接点が持てたこと、今後のよりよい関係作りを続けたいとの意見を頂いた。(イルワン＆ティタ)* *3. 事業関係者(作家、運営、イベント参加者、地域住民)たちとの間で生まれた交流やその後の関係性の構築を評価⇒地元アーティストが運営するスペース藤での意見交換により、インドネシアと前橋との交流プログラムの発案されるなど、継続的な関係瀬が生まれた(イルワン＆ティタ)*	

自己評価(担当者)	効率性 ①:③ 事業が効率的だったといえるか	1.非常に良い	2.良い	(3.)普通	4.劣る
	合目的性 ②:④ 事業の目的を達成したといえるか	1.非常に良い	2.良い	(3.)普通	4.劣る
	事業の将来性 ②:⑤ 館の事業に対し将来性があるか	1.非常に良い	(2.)良い	3.普通	4.劣る
	社会的将来性 ③:⑤ 社会への影響に将来性があるか	1.非常に良い	(2.)良い	3.普通	4.劣る
	課題・改善点	アーティストの制作やリサーチ内容によって、地域との交流やプログラムへの参加の幅が大きく変わる。滞在開始の段階で、開かれたものにすることで(地域住民向けの紹介プログラムなどを実施)、制作・リサーチ内容に左右されない交流の場の創出をする必要があると考える。また情報発信方法においても、再検討が必要。			
引継ぎ事項(特記事項)		特になし			
コメント・意見		館長 副館長	今年度はとくに作家の表現メディアや関心が多岐にわたり充実した事業になった。運営を地域のコーディネーターに頼んでいく方法も定着してきたが、運営委託をしていく方法については課題も残った。今後は外部への発信に積極的に努めることで成果を伝えていくようにしてほしい。		
		運営評議会			

最終更新日:H30.3.28

平成29年度　アーツ前橋事業評価調書（1）

資料1

基本事項	事業名	あーつひろば					
	事業1	時期・日数	2017年6月25日（土）	会場	スタジオ、交流スペース	人数	155人
	事業2	時期・日数	2017年8月19日（土）	会場	スタジオ、交流スペース	人数	184人
	事業3	時期・日数	2017月11月18日（土）、23日（木・祝）	会場	前橋市児童文化センター	人数	59人
	事業4	時期・日数	2017年11月26日（日）	会場	スタジオ、交流スペース	人数	106人
	事業5	時期・日数	2018年2月3日（土）、17日（土）	会場	地下ギャラリー	人数	22人
	事業6	時期・日数	2018年2月24日（日）	会場	スタジオ、交流スペース	人数	121人
	担当者	小田学芸員、高山主事					
	目的・目標（総括表）	1.サポーターやアーティストによる多様な芸術体験を通して、アーツ前橋への来館促進を行い、将来の自主的な来館者を増やしていく 2.サポーターが企画・運営のノウハウを身につける					
	キーワード	アーツ前橋デビュー、アートや人との出会い、親子連れ、サポーターや他団体との連携					
	他団体との連携（共催、協力等）	前橋市商工会議所（事業2）、前橋市児童文化センター（事業3） 身体の芸術推進実行委員会（事業5）					
	参加作家	寺村サチコ	三上愛	坂川善樹	OKANIWA		

①インプット（投入）…用いた資源　②プロセス（活動）…戦略や手段の計画　③アウトプット（結果）…実施内容、実績
④アウトカム（成果）…どういう反応が得られたか　⑤インパクト…波及効果

①投入（支出）・③結果（収入）	印刷物等	チラシ（A4）	チラシ（A4、U25）	アーツからの挑戦状（ガイドマップ）			
		各回1,000枚	30,000枚	各回50部程度			
	財務指標	収入（A）別表から転載	支出（B）別表から転載	収支比率（A）／（B）	一人当たりコスト	参加費収入（Aの一部）一般	割引 / 合計
	予算	－	969,580 円	－	1,499 円	－	－ / －
	決算	－	960,645 円	－	1,485 円	－	－ / －
	差額	－	−8,935 円	－	−14 円	－	－ / －
	予算／決算	－	99.1%	－	－	－	－ / －

②内容・活動	〔②内容〕事業の概要	事業の概要（転記）	サポーター等と協働しながらアーツ前橋に親しみ、多様な芸術に触れるワークショッププログラムを実施
	〔②活動〕主な取組（手段）の結果 ・メディア等広報実績 ・新たな試み 関連イベント 助成　など	・広報戦略 ・新たな試み（転記）	キッズフェスタ等まちなかの大規模イベントと連携し、広報活動を効果的に行う
	●指標 来館者反応 手ごたえ アンケート	広報実績［新規掲載や効果が大きかった媒体など、特別な案件］	・商工会議所が実施している「夏休みキッズフェスタ」のチラシ（市内小中学校全校生徒配布）に掲載、およびスタンプラリーのポイントに初めて参加したことで、呼び込みに行かずとも自然と人が流れてきた ・前橋市児童文化センターの広報誌「わくわくキッズ」（市内小中学校の全校生徒配布）に児童文化センターで出張開催するものを掲載したところ、すぐに定員に達した
		新たな試みの実績	・親子連れの多い施設である前橋市児童文化センターで出張開催を行ったところ、42%がアーツ前橋に来館したことが無い、または初来館（11/26）したとのことだった。作品を児童文化センターでも展示したことで、児童文化センターの遊休スペースを活用することが出来た。児童文化センターのプログラムに参加し、2月の回に参加した家族連れもいた ・個別の来館が少ない高校・大学生の層をターゲットとした「あーつひろばforU25」を開催し、市内在住の高校生全校生徒へチラシを配布した。2月というテスト期間の実施でもあり、応募はそこまで伸びなかったが、関心の高い参加者との交流ができた。2/3ではアーツ前橋に初来館した高校生が半数だった

平成29年度　アーツ前橋事業評価調書(2)

資料1

	事業名	あーつひろば				
③結果	数値目標	指標1	目標	実施回数: 大規模:3回、小規模:2回	実績	実施回数: 大規模:4回、小規模:4回
		指標2	目標	参加者数:450人	実績	参加者数:647人
		コミット人数(事業・イベント等参加者数・実績)				647
	定性目標	定性目標(転記)	アーツ前橋の初来館のきっかけとし、リピーターや他のプログラムへの参加者が増える			
		実績	定期開催を始めてから3年度目を迎え、初年度よりもリピーターの割合が増えつつある。隣接施設へ呼び込みに行った際の家族連れの反応にも、アーツ前橋の認知度が少しずつ高まっている			
③結果	進捗管理 [スケジュール観]	(A)概ね円滑に進んだ B.遅延気味であった(内容:　　) 開館後まで積み残しとなった事項(　　)				
④成果	[④成果] 期待に対する結果 ・観覧者層のターゲット ・ねらい	観覧者層のターゲット(転記)	ターゲット:アーツ前橋に来館したことの無い親子(隣接施設利用者等) (U25:25歳以下)			
		成果	商工会議所や前橋市児童文化センターとの共催時は、それぞれの媒体によって広く事業が周知され、参加者数が例年より伸び、呼び込みをせずとも当日の開始時間には人が集まる状況になった。あーつひろば for U25では、市内の高校生にチラシを全校生徒配布した。これまで全高校生にまでチラシを配布する機会が少なかったため、プログラム自体への参加者数は伸びなかったが、アーツ前橋という存在を知る機会になったのではないか			
		ねらい1(転記)	1.初めて来館して造形活動や鑑賞を体験しながら、アーツ前橋は自己や他者の表現が認められる場所であることを理解する			
		成果	保護者からは子ども自身のペースで自由に過ごすことが出来て良いとの声、8月のプログラムに補助で参加した学芸員実習中の大学生からは、他の施設の親子向けプログラムとは違い、参加者の自主性を尊重したプログラムであり、完成した作品を通してサポーターやスタッフと交流する様子が見られるなど子ども達が自信をもって活動していたとの評価があった			
		ねらい2(転記)	2.サポーターが企画や運営へ継続的に関わる			
		成果	素材を分類したり補充する作業やワークシートの質問を考える準備日を用意したことで、当日以外にも幅広く運営に関わることが出来るようになった。児童文化センターでの出張プログラムでは、アーツ前橋の環境とは違う場所での実践となったため、今後のアーツ前橋で実施する際の空間への配慮や改善点などをサポーター自身が体感する機会となった。次回のあーつひろばでは、サポーター自主開催希望の声を受けて、サポーターが考えたプログラムに焦点を当てた構成とする予定			
		ねらい3(転記)	3.U25独自のねらい			
		成果	これまで個別の来館の少ないティーン層の来館促進の機会として、「身体拡張2018　公園デビュー」に合わせ、対象年齢層が関心のありそうな演技とDJをテーマに実施した。2月のテストや受験シーズンだったため、チラシの配布枚数に対しての参加者数自体は各回10人程度と決して多くは無かった。しかし、アンケートによれば、プロから学んでみたい、これまで関心はあったが取り組みたいことに対して、背中を押すような機会になった。年齢制限を25歳以下とした点は、サポーターや今回の対象でなかった一般の方から「自分も参加したかった」といった反響が多くあった			
⑤波及効果	個別評価 ※記入日を()内に入れてください ※概ね1年経過毎に再確認して修正	<1～6は、記入項目の例・無い場合は削除。独自の評価項目の設定可。記入日を記載> 1. 参加作家のその後の活動を評価⇒該当なし 2. アーツの事業に対して、誰がどのような価値を見出したのかを評価 ⇒ ・初参加から約2年経った今年、子どもが普段の保育園とは違い自己表現をどんどんしていた、子ども自身が楽しみに来館したとの保護者からの声があり、子どもや保護者にとってアーツ前橋が居場所の1つになった(2018/3/24) 3. 事業関係者(作家、運営、イベント参加者、地域住民)たちとの間で生まれた交流やその後の関係性の構築を評価⇒ ・過去のプログラムで講師をしたアーティストの参加イベント(アーツ前橋以外が主催)にサポーターが個人的に手伝いに行っており、地域でアートを支える人材やネットワークが広がりつつある(2018/3/24) 4. 事業の実施に伴う波及効果⇒該当なし 5. 地域資源の活用という点での効果⇒該当なし 6. 意図せざる(思わぬ)効果⇒該当なし			

平成29年度　アーツ前橋事業評価調書(3)

資料1

事業名	あーつひろば				
自己評価（担当者）	効率性　①:③ 事業が効率的だったといえるか	1.非常に良い	(2.良い)	3.普通	4.劣る
	合目的性　②:④ 事業の目的を達成したといえるか	1.非常に良い	(2.良い)	3.普通	4.劣る
	事業の将来性　②:⑤ 館の事業に対し将来性があるか	1.非常に良い	(2.良い)	3.普通	4.劣る
	社会的将来性　③:⑤ 社会への影響に将来性があるか	1.非常に良い	(2.良い)	3.普通	4.劣る
課題・改善点	大規模なものについては来場者が各回100人を超え、またリピーターも増えて滞在時間が長くなる傾向のある中で、広くは無いアーツ前橋のスペースで今後どのようなプログラムを実施していくか、形態や周知方法、実施回数を見直す時期に来ている。広く受け入れる部分と、参加者は少なくとも深い体験ができ、アートを通じた参加者同士の出会いや交流を促進するようなものを両立させ、展覧会そのものや関連イベントへの効果的な接続は引き続き検討が必要。サポーターの自主的な運営への参加とティーン層へのアプローチも継続的に行うべきである。				
引継ぎ事項（特記事項）	特になし				
コメント・意見	館長 副館長	定期的な開催でサポーターによる自主的な運営ができる事業に成長したのは大きな成果。U25では対象を明確にした意義もあったと思われる。今後は他の事業や鑑賞体験とのつながりをもっとつくっていけるとよいのではないだろうか。			
	運営 評議会				

最終更新日：H30.3.28